環境省 平成25年度　持続可能な地域づくりを担う人材育成事業

地域版ESD環境教育プログラム
ガイドブック

環境省

もくじ

はじめに…… 1
本書をご活用いただくにあたって…… 2

【北海道ブロック】…… 5
北海道ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 6
（北海道）北国の暮らしから省エネを考える
「フィフティ・フィフティ」プロジェクト…… 7

【東北ブロック】…… 9
東北ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 10
（青森）身近な公園をもっと知って、魅力を伝えよう！ … 11
（岩手）ふるさとの川～水がつなぐ自然のめぐみと人のくらし … 12
（宮城）カキを通して宮城のきれいな海を守ろう！ … 13
（秋田）MOTTAINAI（もったいない）の松林を秋田方式で未来へ … 14
（山形）鮭をとおしてかんがえる川のこと、食のこと … 15
（福島）森・川・海のつながりの中から“いのちの輝き”伝えよう … 16

【関東ブロック】…… 17
関東ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 18
（茨城）なたねプロジェクト ～タネは命の循環～…… 19
（栃木）ちがう国でも同じこと～モンゴルと
日本の暮らしを比べてみよう～ …… 20
（群馬）太陽の力でパウンドケーキをつくろう！
～楽しみながら、ESDについて考えよう！ … 21
（埼玉）もっといきいきビオトープ
～身近な自然とのつながりを知る～ …… 22
（千葉）公園・発見・ほっとけん …… 23
（東京）とびだせわくわくドキドキ愛日探検隊
―まちめぐりをして地域の良さを体験し、気づき、
人と関わり、まちづくりを発信する― …… 24
（神奈川）学校林から “青根の輝き” を伝えよう …… 25
（新潟）ミッション!!ビオトープを守り、伝えよう … 26
（山梨）八ヶ岳博士になろう！
～八ヶ岳南麓の自然を知る～ …… 27
（静岡）ふるさとの海を守り、奇跡の命に寄り添おう … 28

【中部ブロック】…… 29
中部ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 30
（富山）ぼくらの里山『呉羽山』…… 31
（石川）金沢の環境が育んだ食 …… 32
（福井）ビオトープの再生を通して、地域の特性や
持続可能性を考えよう …… 33
（長野）信州の山の中で暮らし、歴史、文化、自然を学ぶ
～里山から山岳の中で～ …… 34
（岐阜）温暖化・エネルギーについて学び、何ができるか
考えよう …… 35
（愛知）環境問題について考え,地球にやさしい活動をしよう… 36
（三重）見つめよう　わたしたちの自然
～ギフチョウから考える薦原の自然と未来～ …… 37

【近畿ブロック】…… 39
近畿ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 40
（滋賀）渋川生き物絵図 …… 41
（京都）観光地の嵯峨嵐山を体験・調査・参画しておくれ
やす。 …… 42
（大阪）西鳥の海に行こう …… 43
（兵庫）ミヤマアカネ・リサーチプロジェクト …… 44
（奈良）菜の花の向こうに …… 45
（和歌山）地域の水生生物のつながりを調べる …… 46

【中国ブロック】…… 47
中国ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 48
（鳥取）世界とつながり未来につなげよう！ …… 49
（島根）地域を守る・伝える絵本作家になろう！ …… 50
（岡山）食と環境のつながりについて考えよう …… 51
（広島）里海たんけん隊～ふるさとの海の発見！感動！SOS！～… 52
（山口）絵本作家を目指そう …… 53

【四国ブロック】…… 55
四国ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 56
（高知）物部の森のもの知り博士になろう！
～森林保全と生き物たちとの持続可能性を考える～ … 57
（香川）『樹木の気持ち』とつながろう！
～まちも里海も豊かにする樹木のはたらき～ … 58
（愛媛）東雲ピカピカESD
～私たちが育てるコミュニティファーム～ …… 59
（徳島）私たちの暮らしと河川環境、生き物のつながり
～水質調査から見えてきたもの～ …… 60

【九州ブロック】…… 61
九州ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 62
（福岡）エコシステム学習プログラム …… 63
（佐賀）命の水－開発途上国の子どもの問題を「水」を通
して学ぶ …… 64
（長崎）稲佐っ子から地球人へ!豊かさを考えよう！… 65
（熊本）生命の誕生と命のつながりを学ぼう！ …… 66
（大分）メモリアル・ツリー ～ 10年後の私へ～ …… 67
（宮崎）ネイチャーゲームで森林環境教育 …… 68
（鹿児島）身近な自然と「水」と「生き物」のつながり … 69
（沖縄）地下水と飲み水 …… 70
索引…… 71

解説【1】ESDのEの価値 …… 4
解説【2】持続可能な社会づくりの構成概念
（ESDの要素）（例） …… 8
解説【3】ESDの視点に立った学習指導で
重視する能力・態度（例） …… 38
解説【4】学校における環境教育と
ESDへの取り組み …… 54
解説【5】ひとめでわかる学年別・教科別ガイド … 74

はじめに

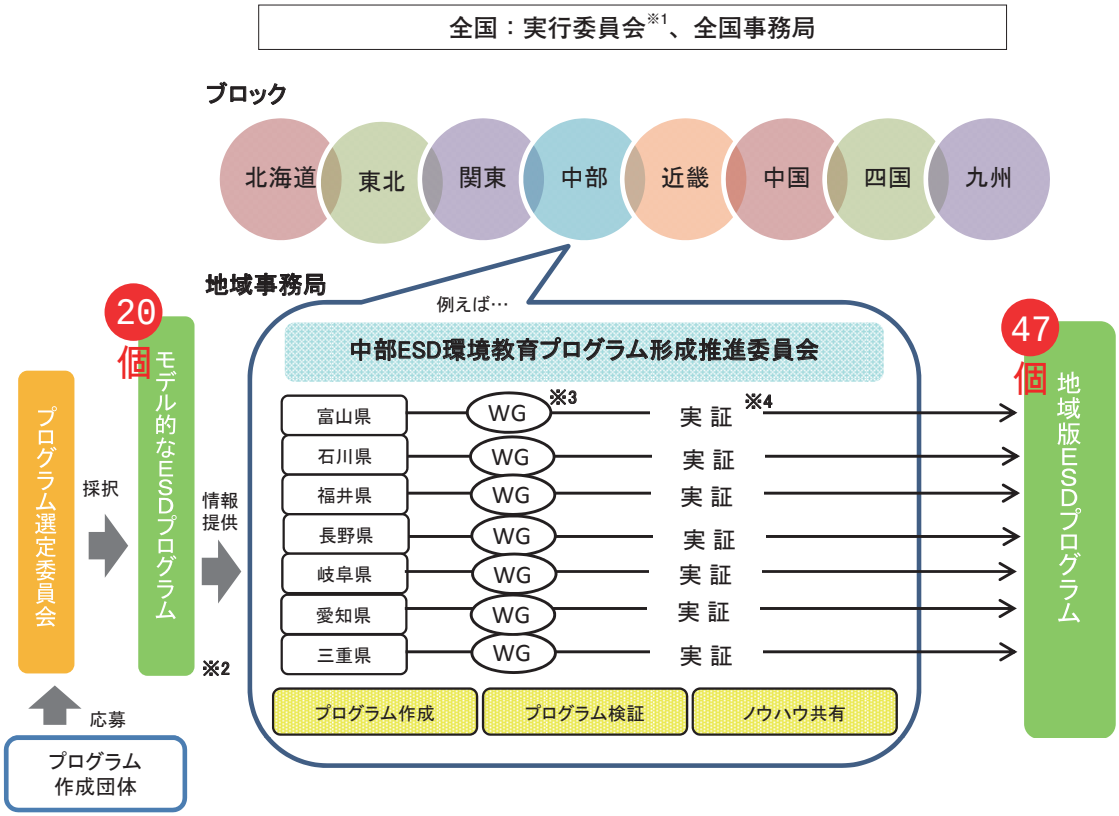
私たちの暮らす地域社会では、自然環境の荒廃・地域活力の低下・少子高齢化・貧困・格差の拡大など様々な問題が起きています。このような問題の解決には、自ら課題を見つけ、学び、考え、客観的に判断し、他者と協力しながら課題解決に向けて行動する力が必要となります。ESD（Education for Sustainable Development；持続可能な開発のための教育）は、そういった力を身につけるための学びです。

日本が提案した「国連持続可能な開発のための教育の10年（国連ESDの10年）」は 2005年からスタートし、最終年である今年（2014年）は、日本で「持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議」が開催されます。これを機に、日本各地でのESDに関する取組みをより一層促進、定着させていくことが求められています。

環境省では、文部科学省の協力の下、「平成25年度 持続可能な地域づくりのための人材育成事業」の一環として、ESDの視点を取り入れた環境教育プログラム（以下、「ESD環境教育プログラム」）を作成し、全国47都道府県において、各地域の自然環境や歴史・文化などの特性を活かしたプログラムへと改良しながら、学校現場等での実証事業を行いました。

本書は、この1年間の成果として各地域オリジナルのESD環境教育プログラムをまとめたものです。お読みくださったみなさまが、地域に根差したESDに興味を持ち、なにかを始めるきっかけとなれば、幸いです。

「平成25年度　持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」
事業推進体制



※1 実行委員会メンバー：阿部治、小澤紀美子、棚橋乾、廣野良吉（五十音順、敬称略）

※2 今年度は、全国からESD環境教育プログラムを公募し、プログラム選定委員会において、その中から特にESDとして効果的な20事例を選定しました。選定プログラムについては、専門家の指導のもと改編を行い、「モデル的なESDプログラム」を作成しました。

※3 本事業では、様々な主体が関わって、モデル的なESDプログラムの地域化・地域版ESDプログラム実証授業の検証などを行う円卓会議の場として、各都道府県にワーキンググループ（WG）を設置しました。学校の先生はもちろん、多様な主体を巻き込むことで、地域の人々が自らの地域の課題について考え、未来を描いていく場となっています。

※4 各都道府県にて、学校現場を中心に地域版ESDプログラムについて実証授業が実施されました。

本書をご活用いただくにあたって

本書の構成

本ガイドブックは、

1. 地域ネットワークのページ
2. プログラムのページ

の2種類のページによって構成されています。

1. 地域ネットワークのページ

このページでは、全国8ブロックごとに、多様な主体がつながるネットワークの基盤がどのようにつくられたのか、またどのような方が関わっているのかを紹介しています。

①該当ブロック名

- 北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州のうち、該当するブロックを記載しています。

②ブロックの概要について

- ブロックに所属する各都道府県事務局、ワーキンググループの特徴などを記載しています。

③地域におけるESD推進体制づくりに関係する写真、イラスト、図表

④ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

- 地域において、どのように多様な主体が関わるネットワークの基盤が構築されてきたのか、紹介しています。

⑤関係者

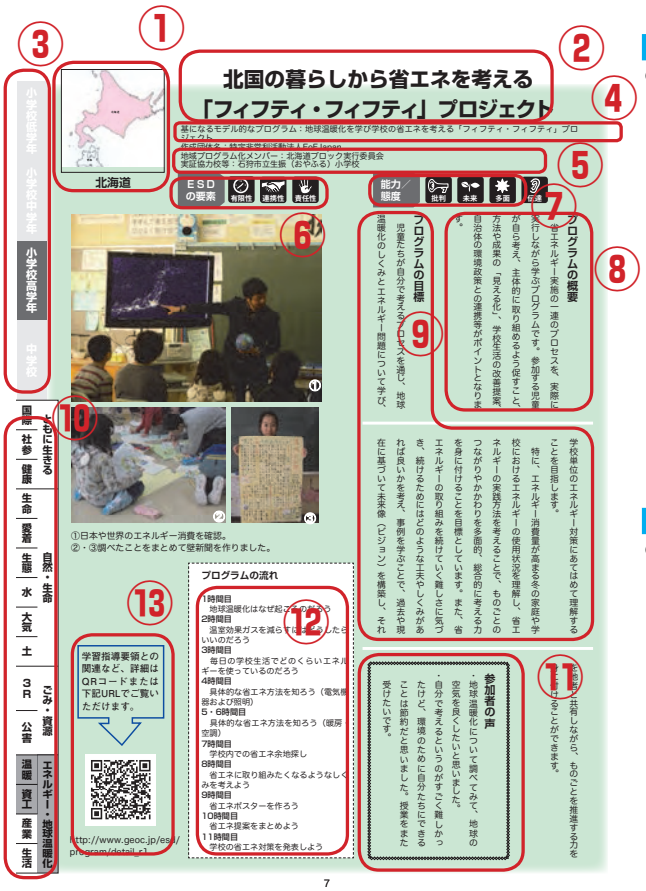
- ブロック実行委員会、ワーキンググループ等ESD推進に関わる方々について紹介しています。（所属は2014年3月末日現在）

⑥問い合わせ先

- 該当ブロック事業に関する問い合わせ先を記載しています。

2. プログラムのページ

このページでは、全国8ブロック47都道府県で作成された、地域版ESDプログラムの内容を紹介しています。



①該当地域名

●地域版ESDプログラムを作成・実践した地域です。

②プログラム名

●地域版ESDプログラムのタイトルです。

③対象

●プログラムの対象学年です。

④基にしたモデルプログラム名（20プログラム）

●基にしたモデルプログラム。この詳細は、GEOCのWEB：特設ページ「ESD環境教育プログラム」内の「プログラムから探す」にて、ご覧いただけます。
http://www.geoc.jp/esd/

⑤地域版ESDプログラム化メンバー

●地域版ESDプログラム作成に関わった方々（所属は2014年3月末日現在）及び実証授業に協力頂いた学校等です。

⑥持続可能な社会づくりの構成概念（ESDの要素）

●このプログラムを通して考える持続可能な社会に必要な概念をアイコンで記載しています。

多様性	社会は多様な事物から成り立っていること
相互性	社会は物や人が関わりあって成り立っていること
有限性	社会を成り立たせている資源やエネルギーには限りがあること
公平性	持続可能な社会は権利の保障や恩恵の享受が公平であること
連携性	持続可能な社会は、多様な主体が状況に応じて互いに協力することで構築されること
責任性	持続可能な社会は、一人一人が責任と義務を自覚し、行動することで構築されること

⑦ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

●このプログラムに取組むことで、身につく能力や態度をアイコンで記載しています。

【批判】	批判的に考える力
【未来】	未来像を予測して計画を立てる力
【多面】	多面的、総合的に考える力
【伝達】	コミュニケーションを行う力
【協力】	他者と協力する態度
【関連】	つながりを尊重する態度
【参加】	進んで参加する態度
【その他】	その他

⑧プログラムの概要

⑨プログラムの目標

⑩分野

●4つの分野「ともに生きる」「自然・生命」「ごみ・資源」「エネルギー・地球温暖化」の中の該当分野を示しています。

⑪参加者の声

●地域版ESDプログラムを体験した子どもたちや学校の先生からの一言です。

⑫プログラム展開の流れ（時数と単元名）

⑬QRコード

●こちらのQRコードを読み取るか、下のURLへアクセス頂くとプログラムの詳細が見られます。

解説【1】ESDのEの価値

小澤紀美子先生は、子ども一人ひとりの思考過程や価値観の違い、あるいは自己と環境との相互作用による変容の過程を重視し、「教育educate」の本質はもっている力を引き出すことであり、他者からの承認や自己肯定感を醸成し、「学ぶ意欲」を育むこと、環境教育の「教育」の意味は社会システムの変革の意味を包含している、という立場で「知の統合」という観点から実践・研究を進めていらっしゃいます。今回は、ESDの価値についてお話頂きました。

小澤　紀美子（こざわ　きみこ）

71年㈱日立製作所システム開発研究所研究員、93年東京学芸大学・同大学院研究科教授。現在は東京学芸大学名誉教授、東海大学大学院客員教授、こども環境学会会長。専門分野は環境教育学。
社会活動では、中央環境審議会委員（環境省）、社会資本整備審議会元委員（国土交通省）、日本学術会議連携会員「環境思想・環境教育分科会」委員、中央教育審議会元委員（文部科学省）などを務める。編著書は『これからの環境学習―まちはこどものワンダーらんど』（風土社）、『子どもの・若者の参画』（萌文社）、『児童心理学の進歩　2005年版』（金子書房）など多数。

ESDプログラム事業において、実行委員長を務めていただいている、小澤紀美子先生に、ESDとは何か、またESDの価値についてお話を伺いました。

―ESDのEについて、LearningやTeachingではなくEducationと表現することにはどのような理由があるのでしょうか？

小澤：

Educateは「その人の持っている能力を引き出す」という意味です。受験勉強のような、手段としての勉強のことではありません。主体的な学びLearningと学び方を学ぶこと（How to Learn）でLearningやTeachingの意味も含まれているのです。

また、SD（Sustainable Development）は、絶対に正しい唯一の解があるわけではありません。唯一の解がないので、代替策を考えるためには、多様な価値との対話が必要なのです。どういう未来だったら良いかについては、みんなイメージが違います。そこで、対話の場をつくってビジョンや意見を共有していく。対話を通して過去に学び、今を知り、未来から学ぶプロセス型学習がESDです。

―対話づくりにおいて重要なことはどのようなことでしょうか。

小澤：

対話をつくりだすには、課題の与え方が大切です。知識伝達型で与えてしまっては、主体性や共感・納得を得られません。自ら課題を発見し、対話を通して（自分の思考回路の中で「問う」ことも含む）解決していくことが重要なのです。

―課題を発見できるようになるために、どのようなことが必要でしょうか？

小澤：

まず地域を知るということが必要です。一人で知るのは難しいので、地域やくらしを持続可能にしていくために、価値観や見方の違う人達と一緒に地域の特色や課題を知る（見分ける）こと。価値観や見方が違うからこそ、協働（コラボレーション）していくことが必要になってきます。

日本人は単に、問題（problem）を教えてしまいがちですが横断的・総合的な課題（issues：多面的な視点から考える課題）をどう教えるかが重要なのです。その相互に結びついているものをときほぐし、批判的に分析していく、思考回路を活性化していく能力が、ESDを通して身につけて欲しい力です。環境や人権など様々な社会問題が、みんなグローバルにつながっていくこと、それを読み解く力を身に付けなくてはならないと思います。

単純な例で言えば、伝統的に日本の教育は、教師が知識や技能を伝達する系統的な学習で、＜１＋１＞の解を求めていく「何を学ぶ」といった視点からの教育が重視されてきました。

一方、ESDは探究的な学習で、何をどのように足したら＜２＞になるかということを考えていく「どう学ぶか」といった視点からの教育です。このような視点から学んでいくと、他人と共感できる豊かな人間性や主体性、問題解決能力を身に付けられるのではないでしょうか。

これからの学びは、一人ひとりの考えの道筋や興味・関心が異なることを前提に、子どもの思考態度や探究の方法をそれぞれ豊かに形成すること、主体的に学び続ける能力を育成していくことが必要になってくるでしょう。まさにESDの時代と言えるのではないでしょうか。

―ありがとうございました。

北海道ブロック

はまなすの丘公園（石狩市）
日本海と石狩川の交わりに形成された1,500メートル
におよぶ砂嘴に広がっています。木道を散策しながら、
ハマナスなど色々な海浜植物を楽しむことが出来ます。
周辺には全国的に見ても貴重になりつつある自然海岸が残されており、
砂丘上に広がる海浜植生は、「石狩市海浜植物等保護条例」により保全されています。
写真提供：石狩市 石狩浜海浜植物保護センター

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

北海道ブロック

北海道ブロックの概要

北海道ブロックでは、「北海道」という地域性と、小学校において取り組みやすいものという観点から検討を行い、3つのプログラムの地域化を行いました。検討の結果、それぞれのプログラムには、冬季の厳しい気象条件とそのなかでの暮らし、食料自給率の高さと「もったいない」の気持ち、森林資源の豊富さとそれに根ざした産業など、北海道の地域特性と生活の営みが盛り込まれました。そして、そのうちの1つのプログラムを、ユネスコスクールとしてESDに積極的に取り組んでいる石狩市立生振（おやふる）小学校において実証しました。

作成した3つのプログラムについては、パンフレットやEPO北海道のHPにより道内に発信してゆきます。

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

従来からESDに取り組んでいる方、学識経験者、教員及び市教育委員会を構成員とする実行委員会を設置し、それぞれの視点を盛り込んでプログラムの地域化を行いました。また、道内の学校でESDに取り組んでいる企業による事例発表の場を設け、知見の共有を図りました。実行委員会には、北海道教育委員会と実証校が所在する自治体の環境部局がオブザーバーとして参画しました。

これにより事務局であるEPO北海道、市教育委員会及び自治体の環境部局が協働で、「ESD環境教育推進事業報告会ｉｎ石狩」を開催することができ、さらに、北海道独自の3つのプログラムをまとめたパンフレットを、北海道教育委員会等を通じ、道内の全ての小学校に届けることができました。

北海道ブロックに関わる人々

地方事務局

環境省北海道環境パートナーシップオフィス（EPO北海道）

実証団体

NPO法人共育フォーラム

実行委員会メンバー

氏名	所属
安保　幸司	石狩市立生振小学校
碇山　恵子	北海道工業大学未来デザイン学部人間社会学科
池田　　誠	一般社団法人北海道国際交流センター
小泉　雅弘	NPO法人さっぽろ自由学校「遊」
千葉　則理	石狩市教育委員会生涯学習部
松田　剛史	ソーシャルベンチャーあんじょう家本舗
丸山　博子	丸山環境教育事務所

オブザーバー

吉村　公孝	北海道教育庁石狩教育局教育支援課
藤　　彰矩	石狩市市民生活部環境室環境課

問い合わせ先

環境省北海道環境パートナーシップオフィス（EPO北海道）
〒060-0042　札幌市中央区大通西5丁目11番地 大五ビル7階
TEL.011-596-0921 / FAX.011-596-0931
E-mail：epoh-webadmin@epohok.jp

北海道

北国の暮らしから省エネを考える「フィフティ・フィフティ」プロジェクト

基にしたモデル的なプログラム：地球温暖化を学び学校の省エネを考える「フィフティ・フィフティ」プロジェクト
作成団体名：特定非営利活動法人FoEJapan
地域プログラム化メンバー：北海道ブロック実行委員会
実証協力校等：石狩市立生振（おやふる）小学校

ESDの要素　有限性　連携性　責任性

能力／態度　批判　未来　多面　伝達

プログラムの概要

省エネルギー実施の一連のプロセスを、実際に実行しながら学ぶプログラムです。参加する児童が自ら考え、主体的に取り組めるよう促すこと、方法や成果の「見える化」、学校生活の改善提案、自治体の環境政策との連携等がポイントとなります。

プログラムの目標

児童たちが自分で考えるプロセスを通じ、地球温暖化のしくみとエネルギー問題について学び、学校単位のエネルギー対策にあてはめて理解することを目指します。

特に、エネルギー消費量が高まる冬の家庭や学校におけるエネルギーの使用状況を理解し、省エネルギーの実践方法を考えることで、ものごとのつながりやかかわりを多面的、総合的に考える力を身に付けることを目標としています。また、省エネルギーの取り組みを続けていく難しさに気づき、続けるためにはどのような工夫やしくみがあれば良いかを考え、事例を学ぶことで、過去や現在に基づいて未来像（ビジョン）を構築し、それを他者と共有しながら、ものごとを推進する力を身に付けることができます。

①日本や世界のエネルギー消費を確認。
②・③調べたことをまとめて壁新聞を作りました。

プログラムの流れ

1時間目
　地球温暖化はなぜ起こるのだろう？
2時間目
　温室効果ガスを減らすにはどうしたらいいのだろう？
3時間目
　毎日の学校生活でどのくらいのエネルギーを使っているのだろう？
4時間目
　具体的な省エネ方法を知ろう（電気機器および照明）
5・6時間目
　具体的な省エネ方法を知ろう（暖房・空調）
7時間目
　学校内での省エネ余地探し
8時間目
　省エネに取り組みたくなるようなしくみを考えよう
9時間目
　省エネポスターを作ろう！
10時間目
　省エネ提案をまとめよう
11時間目
　学校の省エネ対策を発表しよう！

参加者の声

・地球温暖化について調べてみて、地球の空気を良くしたいと思いました。
・自分で考えるというのがすごく難しかったけど、環境のために自分たちにできることは節約だと思いました。授業をまた受けたいです。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r1

解説【2】持続可能な社会づくりの構成概念（ESDの要素）（例）

子どもたち自身が課題を見出し解決を考えていくESDの視点に立った学習において、「持続可能な社会づくり」を捉える要素（構成概念）を明確にしておくことが重要です。この構成概念と学習内容との関連から、子どもたちにどんな課題を見出してもらうか考えていきます。ただし、構成概念はこれらに限定されるものではありません。

①多様性

多様性

＜学習内容の例＞
・生物は、色、形、大きさなどに違いがあること
・それぞれの地域には、地形や気象などに特色があること
・体に必要な栄養素には、色々な種類があること

・自然・文化・社会・経済は、それぞれの形成過程で様々な様相を見せ、多種多様な事物・現象が存在しています。そうした生態学的・文化的・社会的・経済的な多様性を尊重するとともに、自然・文化・社会・経済に関わる事物・現象を多面的に見たり考えたりすることが大切です。

②相互性

相互性

＜学習内容の例＞
・生物は、その周辺の環境と関わって生きていること
・電気は、光、音、熱などに変えることができること
・食料の中には外国から輸入しているものがあること

・自然・文化・社会・経済は、それぞれが互いに働き掛け合うシステムであり、それらの中では物質やエネルギー等が移動・消費されたり循環したりしています。人は、そうしたシステムとのつながりをもち、さらにその中で人と人とが互いに関わりあっていることを認識することが大切です。

③有限性

有限性

＜学習内容の例＞
・物が水に溶ける量には限度があること
・土地は、火山の噴火や地震によって変化すること
・物や金銭の計画的な使い方を考えること

・自然・文化・社会・経済を成り立たせている環境要因や資源（物質やエネルギー）は有限です。このような有限の物質やエネルギーを将来世代のために有効に使用していくことが求められます。また、有限の資源に支えられている社会の発展には限界があることを認識することも大切です。

④公平性

公平性

＜学習内容の例＞
・健康を保持するような食事・運動・休養・睡眠などが保証されていること
・自他の権利を大切にすること
・差別をすることなく、公正・公平に努めること

・持続可能な社会の基盤は、一人一人の良好な生活や健康が、保証・維持・増進されることです。そのためには、人権や生命が尊重され、他者を犠牲にすることなく、権利の保障や恩恵の享受が公平であることが必要で、これらは地域や国を超え、世代を渡って保持されることが大切です。

⑤連携性

連携性

＜学習内容の例＞
・地域の人々が協力して、災害の防止に努めていること
・謙虚な心をもち、自分と異なる意見や立場を大切にすること
・近隣の人々との関わりを考え、自分の生活を工夫すること

・持続可能な社会の構築・維持は、多様な主体の連携・協力がなくては実現しません。意見の異なる場合や利害の対立する場合などにおいても、その状況にしたがって順応したり、寛容な態度で調和を図ったりしながら、互いに協力して問題を解決していくことが大切です。

⑥責任性

責任性

＜学習内容の例＞
・我が国が、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたこと
・働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと
・家庭で自分の分担する仕事ができること

・持続可能な社会を構築するためには、一人一人がその責任と義務を自覚し、他人任せにするのではなく、自ら進んで行動することが必要です。そのためには、現状を合理的・客観的に把握した上で意思決定し、望ましい将来像に対する責任あるビジョンをもつことが大切です。

国立教育政策研究所　教育課程研究センター
「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」より

東北ブロック

東北ブロックは、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県の6県です。

写真は、「かなぎ元気倶楽部」さんがまちづくりをしている津軽郡金木町のローカル鉄道（津軽鉄道）です。（ストーブ列車で有名）

東北ブロック

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

東北ブロックの概要

東北ブロックは、6県それぞれにプログラム策定委員会及びＮＰＯなどの実証団体を置いて本事業を遂行しました。東北各県で環境教育に取り組むＮＰＯや教育関係者等が構成員となり、自然や文化・歴史的背景などそれぞれの地域が持つ特性を盛り込み、オリジナルの環境教育プログラムを作成しました。

今年度の事業は実施時期が10月～2月と短く、しかも実証が主として冬場に限られていたため、雪の多い東北では実証事業の実施や参加者の確保に困難を極めましたが、何とか無事に終了いたしました。

多大な協力をいただいた実証団体は、どれも普段の活動において小中学生や教育者に接する機会が多く、学校教育を補完する形で地に足の着いた地域密着型の環境教育活動を行っている団体です。

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

東北地区のネットワークのポイントは、地域の中で学校や子どもたちとの環境教育の実績があり環境教育活動のステージを持っている団体と連携したことです。

子どもたちへの環境教育を行うにあたっては地域の教育者や大人の理解・信用を得ることが第一であり、ゼロから信頼を築いていくには多くの時間がかかります。その点、実績のある団体と連携して行ったことでプログラムの内容に集中して行うことができました。

また、地方に行けば行くほど子どもも教育者も少なく、学校でできることは限られています。しかし、地方にこそ貴重な資源や環境教育の題材があることが多くＮＰＯなどと連携することで地域の貴重な資源を活用するプログラムができました。

東北ブロックに関わる人々

（東北地区は環境省東北地方環境事務所と協議の上で、全体の実行委員会・ワーキンググループは置かず、県ごとに策定委員会を組織して策定・実証を行いました。）

地方事務局

公益財団法人　みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

プログラム実証団体

地域	団体名
青森	NPO法人　かなぎ元気倶楽部
岩手	NPO法人　環境パートナーシップいわて
宮城	NPO法人　まなびのたねネットワーク
秋田	一般社団法人　あきた地球環境会議
山形	カワラバン
福島	NPO法人　いわき環境研究室

問い合わせ先

環境省東北地方環境パートナーシップオフィス
〒980-0014　宮城県仙台市青葉区本町2-5-1　オークビル5F
TEL 022-290-7179　FAX 022-290-7181
E-mail：info@epo-tohoku.jp

青森県

身近な公園をもっと知って、魅力を伝えよう！

基にしたモデル的なプログラム：公園、探検・発見・ほっとけん！・・・誰が？
作成団体名：幕張ベイタウンにエコパークをつくる会
地域プログラム化メンバー：　NPO法人 かなぎ元気倶楽部
実証協力校等：県立芦野公園（五所川原市金木町）

ESDの要素：多様性　相互性　連携性　責任性

能力／態度：未来　伝達　協力　参加

プログラムの概要

毎年ゴールデンウィークには全国から約30万人以上の観光客が訪れる自然公園である県立芦野公園。130ヘクタールに及ぶ広大な園内には樹齢百年を超えるソメイヨシノをはじめ、多種類2200本もの桜が華やかさを競い、全国桜百選にも選定されています。この由緒ある身近な公園についてもっと地域の人々が学び、理解し、今やるべきことは何か、そして後世に伝えるべきことは何かなどを考え、その思いを一緒に形にすることによって、より多くの人々に今以上に地域に愛着をもってもらうという取組です。

プログラムの目標

地域の公園の生き物や草木の観察を通して、公園の役割や抱えている課題を知り、その解決法を考えることにあります。また、地域の公園の成り立ちや観光資源として管理・維持している人達の仕事を知り、自分達にできることを考えて欲しいと思っています。

①自然公園の歴史について説明をうけます
②実際に公園内の草木を観察しています
③公園散策マップ

参加者の声

・さくらの公園だけでなく、歴史など奥深さを感じました。
・植物の特性についても学ぶことが出来たので良かったです。
・これからの自然と共に生きていく人間のあり方を変えないといけないと思いました。
・公園の中だけでもたくさんの歴史や文化がありおもしろかったです。

プログラムの流れ

1時間目
自然公園の歴史を知る
2・3時間目
・草木の観察や発見
・公園清掃をする
・オリジナルマップの作成する
4・5時間目
草木の保護活動
6・7時間目
自分達ができることを考える
8～12時間目
自然環境を利活用した手作りイベント開催

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r2

岩手県

ふるさとの川～水がつなぐ 自然のめぐみと人のくらし

基にしたモデル的なプログラム：川は自然の宝箱
作成団体名：多摩市立連光寺小学校
地域プログラム化メンバー：非営利活動法人環境パートナーシップいわて
実証協力校等：まごころハーブの郷、大槌川（大槌町）

ESDの要素　多様性　相互性　連携性

能力／態度　批判　未来　多面　伝達　協力　参加

プログラムの概要

自然体験の機会が少ない児童が、生物の採集や調査により地域を流れる川を体感する体験活動中心のプログラムです。豆腐の手作り体験で大豆に関する理解を深め、地元の農産物を大地の恵みと感じ、先人から伝わる伝統技法により美味しく味わいます。川の体験活動では、水生生物・植物、野鳥、湧水などの視点から川を見るため、地域の海洋生物専門家の協力のもと、異なる季節に2度の体験をし、違いを体験します。その後課題を追求するために本や資料、インターネットなどで学習します。その成果を作品にまとめ、学校だけでなく保護者や地域の人々に向けても発表。地域を流れる川の情報を共有し、川をより身近なものとして認識できるようにします。

プログラムの目標

普段何気なく見ている川の自然を様々な視点から調べることで、川の生態系の多様性や相互のつながり、関わり合いに気づくことです。また、普段当たり前のように口にしている豆腐を自分の手で作ることで、大地の恵みや先人の知恵に感謝する心を育みます。

さらに地域を流れる川の豊かさ、恵みを知り、地域への親しみや愛着を持ち、地域の自然を大切にする心を育みます。調べてまとめたことを図や表、具体物等を用いて他者にわかりやすく伝える能力を育てます。活動を支援する地域の人や専門家との出会いや関わりを通して、コミュニケーション能力を高め、地域への帰属感を育みます。

①春の川の観察会。
②冬の川の観察会。
③大豆からのとうふ作り。

参加者の声

・大槌川のお話はとても良かったと思う。親の世代も大槌川のしくみや川の生き物についてあまり知らないので、こういった学習の機会はもっと必要だと思った。

プログラムの流れ

1・2時間目
秋の川を感じよう（共通体験）
3・4時間目
とうふ作りと水の不思議を体験しよう（共通体験）
5時間目
冬の川を感じよう（共通体験）
6・7時間目
調べたことをまとめよう（整理・分析）
8時間目
発表の準備をしよう
9・10時間目
調べたことを伝えよう（発信）

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r3

宮城県

カキを通して宮城のきれいな海を守ろう！

基にしたモデル的なプログラム：「ふるさとのきれいな海を守ろう！」
作成団体名：環境ボランティアサークル亀の子隊
地域プログラム化メンバー：　NPO法人 まなびのたねネットワーク
実証協力校等：桂島（塩竈市浦戸）

ESDの要素　多様性　相互性　連携性　責任性

能力／態度　未来　多面　協力　関連　参加

プログラムの概要

ESDで大切なことは、学習者自らが価値観を見つめ直し、よりよい社会づくりに参画するための力を育むことを目指した教育を行うことです。本プログラムでは、東日本大震災で甚大な被害を受けた特産物でもある「牡蠣」と海岸に漂着した「ゴミ」拾いを通して、海の環境について現状を知ります。また、カキ養殖に携わる漁師（生産者）の仕事の工夫や思いを聞き、美味しいカキを食べ続けるために、自分達たちが日常的にできることを考え、環境に対する意識を高めます。

プログラムの目標

東日本大震災で被害を受けた海岸に漂着するゴミと、松島湾で行われているカキ養殖を通して、海と人々の生活とのつながりや自然環境について知り、自分ができることを考えます。

海岸清掃活動を通して東日本大震災や生活から出る漂着ゴミについて学び、きれいな海を守る心を育てます。

宮城の特産であるカキ養殖業を営む漁師から、カキの生態や漁師の取組について学び、美味しいカキを食べ続けるために、子どもたちが日常的に出来る事を考え、意欲を高めます。

①カキむき体験中！
②海岸に流れ着いたゴミを拾い集めます。
③カキを味わいながら、カキの体を観察します。

参加者の声

・海をきれいにしないとカキがあまり育たないことが分かりました。
・カキは漁師さんがつくっているのかと思ったけど、海がつくり、漁師さんがそのお手伝いをしてることが分かった。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r4

プログラムの流れ

1・2時間目
　宮城のカキについて知ろう
3時間目
　どんなゴミがあるのだろう
4時間目
　カキを味わおう（昼食）片付けよう
5時間目
　海の環境のお話を聞こう
6時間目
　ふりかえりをしよう
7・8・9・10時間目
　自分たちができることを考えよう

秋田県

MOTTAINAI（もったいない）の松林を秋田方式で未来へ

基にしたモデル的なプログラム：木のパワーを探ろう！
～使って守る森と住まい・まちの創造人材育成～
作成団体名：一般社団法人日本建築学会
地域プログラム化メンバー：一般社団法人あきた地球環境会議
実証協力校等：秋田市立下浜小学校ほか（秋田市）

ESDの要素　相互性　有限性　連携性

能力／態度　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

ESDを意識した環境教育プログラムでは、持続可能な地域の創造にいかにつなげていくかが一番の課題であり、実現の為には、次世代を担う子どもたちにとって「地域の恵みに気付き守る心を育てる事」「ふるさとを愛する心を育てる事」が重要です。このプログラムは、地域に昔から存在する「松林」に焦点を当て、「①何故秋田の海岸には松が存在するのか?」を学び「②松枯れの被害の現状と今後私達がすべき事」を考え「③松枯れ防除「秋田方式」で「炭やきで夕日の松原まもり隊」と一緒に活動してみよう」を通じて、ふるさとの松林の恵みに気付き、大切にする心を育てます。将来にわたり持続可能な社会を創る人材の育成を目指すプログラムです。

プログラムの目標

このプログラムでは、地域に存在している海岸松林を通じて、秋田独自の風土に継承されてきた松林の歴史を学び、ふるさとの松林を守りたいという気持ちで、主体的に活動する事により、ふるさとを愛する心を育み、より良い自然環境について考え活動する力を育てる事を目的としています。また、秋田の環境課題である松枯れ被害の間伐材も炭として大切に再生資源として利用し、継続的環境保全に繋がる課題解決への一歩を踏み出す事を目標とします。

具体的な体験や知識の統合を通し、今後の持続可能な社会の在り方を考えられる、地域の核となる人材の育成を目指します。

①松枯れの被害と実態について学びます。
②松を枯らすマツノザイセンチュウ。
③松枯れ防除「秋田方式」を学びます。

参加者の声

・先人のねばり強さを学びました。
・松を枯らすマツノザイセンチュウについてのことを知りました。活動に参加して、枯らさない手伝いをしたいと思いました。

プログラムの流れ

1・2時間目
下浜海岸植樹林の育樹
3時間目
なぜここに松林が存在するのか？
4時間目
松枯れの被害の現状と今後私達がすべきこと
5・6・7・8時間目
松枯れ防除「秋田方式」を学び「炭やきで夕日の松原まもり隊」と一緒に活動してみよう

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r5

山形県

「鮭をとおしてかんがえる川のこと、食のこと」

基にしたモデル的なプログラム：身近な自然と「水」と「生き物」のつながり
作成団体名：特定非営利活動法人くすの木自然館
地域プログラム化メンバー：　カワラバン
実証協力校等：鮭川村保健センター（鮭川村）

ESDの要素　多様性

能力／態度　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

鮭川は、春にはサクラマス、夏にはアユ、秋にはサケが遡上することから、それらの川魚を使った郷土料理が数多くあります。

郷土料理はその地で得られた食材を、その地の気候・風土にあった調理法で調理し、その地で長く伝承されてきたものです。鮭川村には川の他にも山野の幸を使った郷土料理も数多くあることからも村の自然環境がいかに豊であるかを推察することができます。

本プログラムでは、地域に伝わる郷土料理づくりをとおして、その地の気候や風土、自然環境等に目を向けることで地域の素晴らしさを再認識し、それらの郷土料理をいつまでも伝承できるよう地域や環境に対して行動できる人材育成を目的とします。

プログラムの目標

川や山林など地域の自然環境の特徴を知り、地域にどのような郷土料理があるかを知ることにあります。

また、郷土料理がどのような経緯でつくられるようになったか、地域の方との交流を深めながら郷土料理をつくることで、その想いや味を実感することを目標とします。

①地域の自然環境の特徴を学びます。
②郷土料理づくりに挑戦。
③鮭の増殖現場に見学にいきました。

参加者の声

・自分の住む地域の自慢できることは2つや3つなどではないと言うこと。
・大人の人が一つの地域と鮭を守り、育てようとしているのだと思った。

プログラムの流れ

1−4時間目
　地域の自然環境を観察する
5・6時間目
　日本の郷土料理
7−9時間目
　わが家の郷土料理
10・11時間目
　郷土料理づくり
12・13時間目
　郷土料理と地域の環境を考える
14・15時間目
　伝える

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r6

福島県

森・川・海のつながりの中から“いのちの輝き”伝えよう

基にしたモデル的なプログラム：里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう
作成団体名：豊田市立西広瀬小学校
地域プログラム化メンバー：NPO法人いわき環境研究室
実証協力校等：いわき市立勿来第二小学校、いわき市立上遠野小学校ほか（いわき市）

ESDの要素：多様性　相互性　有限性　公平性　連携性　責任性
能力／態度：批判　未来　多面　伝達　協力　参加　関連

プログラムの概要

多くの流域を持ついわき市の学校において、それぞれの地域の環境に応じて環境学習を実践できることをねらいとして作成したものです。森・川・海など子どもたちが学習活動に携わるフィールド全てを「ビオトープ」として捉え、環境教育・学習を実施します。観察会では、自然環境の豊かさを実感し、森の整備活動では、森が生み出す水の役割を体得できます。ビオトープの学びは、すなわち故郷の価値を発見し、ふるさとへの愛情を育む活動であるといえます。この学びを発信し、森・川・海のつながりの中で、共に高め合うために、上流域の学校は中・下流域の学校と、中流域の学校は上・下流域の学校と、下流域の学校は上・中流域の学校と交流します。

プログラムの目標

このプログラムの目標は、①環境活動を通して、いのちの尊さと神秘さに気付くと共に、ふるさとに生きる人々や歴史・文化にも関心を拡げ、それらの価値を認識した上で、学校内外の人達と連帯して、いのちを大切にし、ふるさとを守っていこうとする意欲と態度を育てること、②ビオトープの整備活動や観察学習を通して、聞く・話す力や共感・尊重する態度を育てること、③活動に積極的に参加し、学習活動の中で出会う様々な情報を良く吟味して考え、判断する力をつけること、④河川の上流域から河口域までの広い領域の中に住む者として、環境活動を将来にわたってどう行っていくのかを主体的、計画的に考える力と意欲を養うこと、です。

①森で観察会をしました。
②暮らしとの関係について考えました。
③森のもつ役割について学びます。

参加者の声

・川にはたくさんの生き物がいることを知った。汚い水でも生きていける生き物もいるんだと思った。
・川は私たちにとって一番大切なものだとわかった。

プログラムの流れ

1時間目
森・川・海の役割と恵みを知り、「水の循環はいのちの循環」の意味を話し合う。

2−5時間目
身近な里山で観察会と間伐体験をしよう

6・7時間目
川はどこから流れ、どんなはたらきをするのか調べてみよう

8・9時間目
川の環境について調べ、元気な川をとりもどすためにどうしたらよいか考えてみよう

10−12時間目
河口・砂浜の環境を調べてみよう

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r7

福島潟（新潟）

県立東毛青少年自然の家（群馬）

関東ブロック

関東ブロックは、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、静岡県の1都9県です。

広域エリアをカバーする関東ブロック。
地域の特徴や取り上げた環境課題も様々な中で、“私達にできることは何だろう？” “自分達はどんな行動をしたらいいのだろう”を考え、実際に行動に移すことを目指しました。

八ヶ岳(山梨)

水戸市立新荘小学校（茨城）

越谷市立大袋東小学校・
ナラバヤシビオトープ(埼玉)

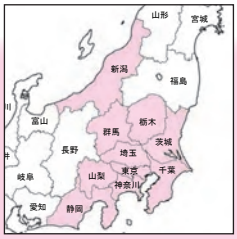
新宿・牛込中央通り商店街（東京）

相模原市立青根小学校(神奈川)

静岡科学館る・く・る
（静岡）

幕張ベイタウン　エコパーク（千葉）

モンゴリアビレッジ　テンゲル(栃木)



関東ブロック

持続可能な地域づくりの“肝”

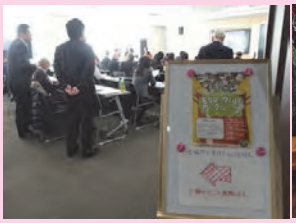
～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

関東ブロックの概要

関東ブロックは新潟から静岡まで、1都9県をカバーする広域エリアのため、これまで各県でESD・環境教育に取り組んできたNPOや自然学校、中間支援組織に地域事務局を担ってもらい、連携を図りながら事業を展開しました。

有識者と各地域事務局から構成したブロック実行委員会では、地域化プログラムの作成や実証事業の方針を検討するとともに、ESDの推進に重要な視点を共有することを目指しました。

また、各地域においては、ESDに関する認知度や意識に差があったため、ワーキンググループの会議や周知啓発事業、実証事業の際には、有識者メンバーの方々より、ESDに関する講義やESD的な視点でのアドバイスをいただきながら実施しました。



ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

地域の実情・課題に精通し、環境、教育分野で多様なネットワークを有する団体に地域事務局を担ってもらうことにより、自治体や教育委員会に加えて、大学や研究機関、民間企業、農家の方など、多様な顔ぶれで構成するワーキンググメンバーで地域化プログラムを作成することができました。

実証に関しては、地域事務局の既存の活動や取組を活かして、学校との調整を図り、生徒の学びの流れを尊重することに注意して実施しました。また、県立青少年自然の家など施設の協力により、参加者を募集して実証を行うなど、地域の特性に合わせて実施しました。

本事業を通じて構築できた、地域におけるESDのつながりを次年度以降のESD推進につなげていきたいと思います。

地方事務局

関東地方環境パートナーシップオフィス（関東EPO）

ブロック実行委員会 有識者メンバー

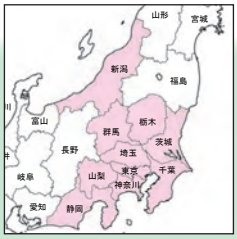
氏名	所属
小澤 紀美子	東京学芸大学
大塚　明	前天城中学校校長／認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD-J）
京極　徹	公益社団法人日本環境教育フォーラム
石田　好広	足立区立梅島小学校

ブロック実行委員会 地域事務局団体

地域	団体名
茨城	認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ
栃木	NPO法人 那須高原自然学校
群馬	チャウス自然体験学校
埼玉	NPO法人 環境ネットワーク埼玉
千葉	ＥＬＣｏの会
東京	NPO法人 新宿環境活動ネット
神奈川	麻布大学 環境科学科地域環境研究室
新潟	みらいずworks
山梨	公益財団法人 キープ協会
静岡	NPO法人 アースライフネットワーク

問い合わせ先

環境省関東地方環境パートナーシップオフィス(関東EPO)
〒150-0001　東京都渋谷区神宮前5-53-67コスモス青山B1F
TEL：03-3406-5180　FAX：03-3406-5064
E-mail：kanto-epo@geoc.jp



茨城県

なたねプロジェクト　～タネは命の循環～

基にしたモデル的なプログラム：なたねプロジェクト　見て食べて楽しんで！　使った油はリサイクル
作成団体名：株式会社アレフ
地域プログラム化メンバー：認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ、常磐大学、水戸市環境課、水戸市教育委員会総合教育研究所、いばらきESD実践研究会、茨城県生活学校連絡会、NPO法人茨城県環境カウンセラー協会　実証協力校等：水戸市立新荘小学校

ESDの要素：多様性　相互性　有限性　公平性　連携性　責任性
能力／態度：批判　未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

なたねをテーマに、ものを大切にすること（もったいない）、命の循環、家庭廃油循環の仕組みづくりを体験的に学びます。

①まず様々な種をつぶして油を抽出する実験などを通じて、種は命、エネルギーの源であることを学びます。

②人間の生活が種に依存していることや、廃油などが原因となった公害問題の歴史を講義形式で学びます。

③地域の店舗にヒアリングに行き、廃油処理方法を調べます。さらに、作成した廃油キャンドルを使用して、家族でコミュニケーションをとる時間を設けます。

④ワークショップ形式で学んだことや地域への提案をまとめ、発表します。

プログラムの目標

①“もったいない”、“いただきます”、“家庭廃油循環”をキーワードに、ものや命を大切にすること、廃油の行方について学び、気づきを得ます。

②種と人間の関わり、地産地消、世界とのつながり、廃油利活用、ライフスタイルの見直し、3R、公害問題などを総合的に学びます。

③家族との関係を改めて見つめ直します。

④地域へのインタビューや発表を通じ、調べる力を伸ばし、地域とのつながりを意識します。

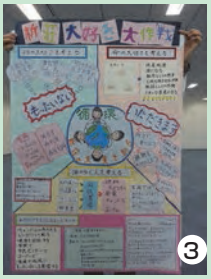
⑤グループワークや発表を重ね、他者と協力する態度やコミュニケーション能力を伸ばします。

⑥家庭廃油循環のしくみづくりを通じ、批判的・総合的に考える力や、計画を立てる力を伸ばします。

参加者の声

・廃油キャンドルの灯りを見て、普通の電気より何十倍、いや何百倍もの温かみを感じました。

・私たちの食べ物もちゃんと命があって、その命をいただいているのだから、残さず敬意を持って食べたいと思いました。



①廃油の活用方法について自分達にできることを考え、クラスで共有　②廃油でキャンドル作りを体験
③学んだことを“新荘大好き大作戦”としてまとめて発表

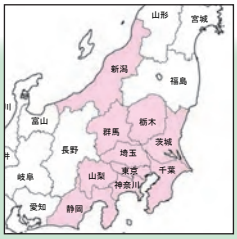
プログラムの流れ

ステップ1
　一粒の種から（導入）
ステップ2
　タネをつぶしてみよう（実験）
ステップ3
　調べ学習（地域へのインタビュー）
ステップ4
　調べ学習のまとめと発表
　（ワークショップ）
ステップ5，6
　・ナタネの一生と私たちの環境（講義）
　・ゴミにしない（講義）
ステップ7
　廃油を活かそう（ワークショップ）
ステップ8
　廃油キャンドルをつくろう（実験）
ステップ9,10
　学んだことをふりかえろう①②
　（ワークショップ＆グループ発表と意見交換）
ステップ11
　地域に向けた提案をまとめよう
ステップ12
　地域に提案しよう（成果発表会）

※“プログラムの流れ”にあるステップ表記は、扱う項目や内容のまとまりを表し、数ステップを1時間で扱う場合や1ステップを数時間に亘って行う場合があります。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r8



栃木県

ちがう国でも同じこと

～モンゴルと日本の暮らしを比べてみよう～

基にしたモデル的なプログラム：ちがう国でも同じこと
作成団体名：京都市立境谷小学校

地域プログラム化メンバー：NPO法人那須高原自然学校、那須町教育委員会、モンゴリアビレッジ テンゲル
実証協力校等：モンゴリアビレッジ　テンゲル

ESDの要素　多様性　有限性　連携性

能力／態度　批判　多面　伝達　協力　参加

プログラムの概要

那須町にあるモンゴリアビレッジ　テンゲルで、実証したプログラムです。子どもたちがモンゴル調査員になるという設定で、モンゴルの衣・食・住・音楽などの生活や文化を体験的に学び、日本とモンゴルの違う所・同じ所を知り、世界には様々な文化があることに気づいた上で、自分の住む国や地域（那須地域）に目を向けていきます。

体験の中で感じたこと・考えたことから、なぜこのような生活や文化になったのかということを掘り下げて考え、最後に、調査結果を発表します。

プログラムの目標

モンゴルの衣（デール）、食（モンゴル紅茶やモンゴル餃子）、住（ゲル）、音楽（ホーミーや馬頭琴）などの生活や文化を実際に体験し、日本とモンゴルの同じ所や違う所、良い点や苦労する点などを知り、世界には様々な文化があることに気づかせると同時に、自分の住む国や地域の自然や暮らしにも興味を持たせます。また、モンゴルの遊牧民の暮らしは、自然をうまく利用して日本より環境にやさしい生活をしていることに気づかせ、自分自身も環境にやさしい生活をするにはどうしたらよいかを考えることができるよう目指していきます。

①モンゴルの移動式住居ゲル建て体験中。
②民謡「ホーミー」、民族楽器「馬頭琴」体験中。
③民族衣装「デール」体験中。男性と女性で異なる。

プログラムの流れ

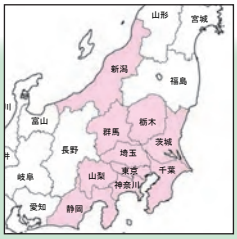
1時間目
　オリエンテーション、アイスブレイク
2・3時間目
　ゲル建て体験【住】
4時間目
　スーテーツァイ（モンゴル紅茶）体験【食】
5・6時間目
　ホーミー・馬頭琴体験【音楽】
7時間目
　民族衣装（デール）【衣】を着て、モンゴルの自然・文化・暮らしについて話を聞こう。
8時間目
　モンゴル探偵団～モンゴル模様探し～
9時間目
　モンゴル餃子体験【食】
10・11・12時間目
　調査発表

参加者の声

・モンゴルはいろいろなことを工夫して暮らしていることに気付いた。
・水をそまつにしない。食べ物をたいせつにしたい。
・同じ地きゅうにすんでいてもくらしはちがうんだなあと思いました。
・日本のぶんかをもっとしって、モンゴルやほかの国の人たちにしってもらいたいです。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r9



群馬県

太陽の力でパウンドケーキをつくろう！

～楽しみながら、ESD（持続可能な開発のための教育）について考えよう！～

基にしたモデル的なプログラム：地球温暖化を学び学校の省エネを考える「フィフティ・フィフティ」プロジェクト　作成団体名：特定非営利活動法人FoEJapan
地域プログラム化メンバー：NPO法人チャウス自然体験学校、群馬県環境森林部環境政策課温暖化対策室、群馬県教育委員会、昭和理化学器械株式会社、足利工業大学
実証協力校等：東毛青少年自然の家、北毛青少年自然の家

ESDの要素　有限性　連携性　責任性

能力／態度　批判　未来　多面　伝達

プログラムの概要

①昔、日本で多く使用されていた薪（熱エネルギー）、②最近、普及し始めた、ソーラーパネル（光エネルギーを電気変換）、③海外の発展途上国などで活用され始めたソーラークッカー（太陽熱エネルギー）、3種類のエネルギーでパウンドケーキを作る体験を通して、それぞれのエネルギーの長所・短所について体験を通じて気づきを与えます。地域の木材（利用率）と歴史、地域の気象条件（晴天率）などを講義形式で学びます。親子でコミュニケーションをとる時間を設けワークショップ形式で、私たちに出来ることを提案にまとめ、発表します。

プログラムの目標

①日々の暮らしを支えるエネルギーを、私たちはどのように得ているのかを理解します。②多くのエネルギーの根源が、太陽エネルギーであることを理解します。③日本とアフリカなどの途上国における国民一人当たりのエネルギー消費量の違いについて学び、途上国との格差、また日本人の多くがエネルギーを大量消費していることを理解します。④日本のエネルギー多消費型の社会を学んだ上で、自分たちはどのような行動をすれば良いかを考える態度を養います。

参加者の声

子どもの声
・太陽の力でパウンドケーキやご飯が炊けるのが分かった。
・電気をむだ使いしないようにします。
・ゲームをあまりやらずにいろいろな人々とかかわり合いたいです。

大人の声
・太陽から受けている恩恵に気づかされました。

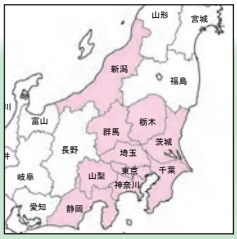
①薪（木質バイオマス）の解説・実験。
②太陽光パネル（光を電気に変換）の解説・実験。
③ソーラークッカー（太陽熱の直接利用）の解説・実験。

プログラムの流れ

1時間目
地球温暖化はなぜ起こるのだろう？
2時間目
温室効果ガスを減らすにはどうしたらいいのだろう？
3時間目
毎日の生活でどのくらいのエネルギーを使っているのだろう？
4時間目
エネルギーにはどんなものがあるのだろう？
5時間目
エネルギーはどの様に生まれるのだろう？
6時間目
持続可能なエネルギーにはどんなモノがある？
7-9時間目
薪、太陽光（ソーラーパネル）、太陽熱（ソーラークッカー）の3種類のエネルギーでパウンドケーキを作ってみよう
10時間目
学んだことをふりかえろう（それぞれの長所短所に気づく）
11時間目
自分達にできることを考え、意見交換しよう
12時間目
自分達にできることを発表しよう

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r10



埼玉県

もっといきいきビオトープ

～身近な自然とのつながりを知る～

基にしたモデル的なプログラム：里山ビオトープから“いのちの輝き”を伝えよう／身近な自然と『水』と『生き物』のつながり　作成団体名：豊田市立西広瀬小学校／特定非営利活動法人　くすの木自然館
地域プログラム化メンバー：NPO法人環境ネットワーク埼玉、埼玉県・環境部温暖化対策課、教育局市町村支援部義務教育指導課、越谷市立大袋東小学校、麻布大学　生命・環境科学部、NPO法人埼玉環境カウンセラー協会
実証協力校等：越谷市立大袋東小学校

ESDの要素　多様性　相互性　有限性　公平性　連携性　責任性

能力／態度　批判　未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

生態系がより豊かであるビオトープにするために、児童が自ら課題を見つけ、解決に向けて活動することを学習の大きな柱としています。現在のならばやし（ビオトープ）にはどのような課題があるのかを考え、その解決に向けた方策を考え、実行することを通して、自然を豊かにし、環境を守っているという意識を高めます。その結果、全校児童が親しんでくれるビオトープを作っているという自信と誇りをもたせ、環境問題に関心を持ち解決に向け主体的に取り組むことができる児童を育てます。

さらに、よりよいビオトープ作りを目指す単元の中で、ESDの視点をとり入れ、地域における人・生き物・自然との関わりについて気づかせます。

①越谷市環境政策課の方による説明・アドバイス。
②ビオトープで活動する子ども達。
③越谷市に生息する動植物に関する講義。

プログラムの目標

①自然や生き物を豊かな心で感じ取り、自然・人・物に対する見方を深め、身の回りの自然や環境を大切にしようとする意欲と実践的な態度を身に付けさせます。②生き物や利用する人にとって優しいビオトープの在り方を、様々な方法で情報収集しながら考えることができるようにします。③自分の考えていることを、工夫して伝えることができるようになります。

参加者の声

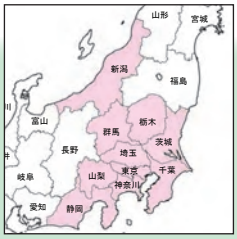
・越谷市には意外にぜつめつきぐ種が多いと思った。
・越谷の生き物に、深く興味を持った。
・人間が自分かってなためにうしなわれたものがたくさんある事が分かりました。
・こしがやも、もっと生きものがゆたかな市になってほしいと思った。

プログラムの流れ

【1学期】ビオトープについて学習し、実際に手入れを行う。
ステップ1
　地域の自然について知ろう
　（ゲストティーチャー講義）
ステップ2・3
　生き物の目でみてみよう
ステップ4
　待ち体験をして気がついたことを
　みんなで共有しよう
ステップ5・6
　これまでの学習をもとに、地域の
　自然のためにできることを考えよう
ステップ7・8
　学習のまとめをしよう
ステップ9・10
　学んだことを発表しよう

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r11



千葉県

公園・発見・ほっとけん

基にしたモデル的なプログラム：公園、探検・発見・ほっとけん！…誰が
作成団体名：幕張ベイタウンにエコパークをつくる会
地域プログラム化メンバー：ELCoの会／環境パートナーシップちば、千葉県環境生活部環境政策温暖化対策推進班、千葉県教育庁教育振興部指導課、千葉県環境研究センター、認定NPO法人ESD-J
協力実証校等：千葉市立打瀬中学校

ESDの要素：多様性 相互性 公平性 連携性

能力／態度：未来 多面 伝達 協力 参加

プログラムの概要

生徒たちの生活に身近な存在である公園ですが、世代や性別に応じて多様な利用目的があります。このプログラムでは地域の公園がどのように利用され、維持管理されているのか、NPOの話を聞いて知り、実際の現場を観察することで、現在抱えている公園の課題点や、問題点を考察します。観察では、グループごとにiPadを使って写真を撮り、教室に持ち帰って撮影した写真を議論しながら選び、コメントをつけます。生徒たちのアイディアをFacebookを通じてインターネット上に公開し、地域の大人がそれを受けて評価し、実践することで、よりよい地域づくりにつなげます。

プログラムの目標

①まず、地域の公園の利用調査や管理の背景を知ることを通して、公園の役割や課題を知り、その解決方法を考えます。またその活動を通して、社会参画への意欲を高めます。②地域の特色に合った理想の公園を考え、自分たちにできる行動を起こすことで、地域社会に参画し地域の発展に努力しようとする態度を養います。③世代間の公平を考えるきっかけとするため、異なる世代の考え方に触れます。④情報機器の扱い方、情報発信活動を通じてメディアリテラシーを養います。

①エコパーク探索中。②公園を観察して、iPadで写真を撮影。
③友達が撮ってきた写真を共有。

参加者の声

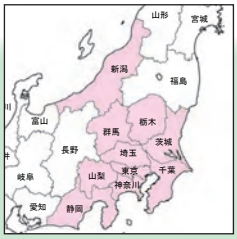
・エコパークにはたくさんの生き物がいるのが分かった。
・ベイタウンで環境問題に取り組んでいるところがあって驚きました。地域や世界の問題について知らなくちゃいけないと思いました。
・あまり地域のことを知らない人たちに地域のことを伝えたいです。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r12

プログラムの流れ

1時間目
公園にはどんなものがあるのだろう
2時間目
地域と世代について考えてみよう
3時間目
公園は誰が管理しているのか
4・5時間目
公園を観察しよう
6時間目
公園の「魅力」「改善点」を発表
7時間目
公園の魅力と改善点を考えてみよう
8時間目
調査や話し合いで分かったことを発表しよう
9・10時間目
考えた理想の公園像を管理者に届けよう



東京都

とびだせわくわくドキドキ愛日探検隊

～まちめぐりをして地域の良さを体験し、気づき、人と関わり、まちづくりを発信する～

基にしたモデル的なプログラム：公園、探検・発見・ほっとけん！…誰が
作成団体名：幕張ベイタウンにエコパークをつくる会
地域プログラム化メンバー：NPO法人新宿環境活動ネット、新宿区立愛日小学校、東京都新宿区・教育委員会、新宿区環境清掃部環境対策課
協力実証校等：新宿区立愛日小学校

ESDの要素　相互性　連携性　責任性

能力／態度　未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

1学期に学校の周りを巡ることで、まずはまちの様子全体を把握します。関わりのあった地域の方々から地域の良さを伺い、一人ひとり自分の好きなスポットを見つけ友達にそれを発信します。2学期には方向別に子ども達のおすすめスポットを巡り、その中からまちの商店街に焦点を当てていきます。商店街の方々の協力のもと、いろいろな店での体験を通して、店のすてき（店、働く人々、まちへの思い等）を発見していきます。店のすてきを見つけることから、地域の良いところや人とのつながりの大切さに気づき、こんなまちにしていきたいなと”まちづくり“を考えることへと発展させていきます。

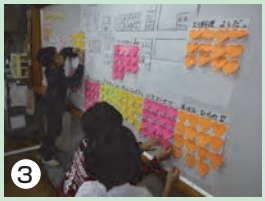
プログラムの目標

①こんなまちにしていきたいなと”まちづくり“を考えていくことを最終目標にします。

②普段関わる家族や親戚、学校以外の地域の人達と関わる中で、自分自身の生活の仕方や社会での役割を考えていきます。③地域で生活し、働いている方々は、歴史的な由来のある町名や坂、昔ながらの店が多い商店街の良さを大切にし、地域の発展を願っています。その方々との関わりを通して人とのつながりの大切さを自覚し、まちのすてきを見つけ、まちを好きになり、子どもたちが考えたまちづくりを発信していくことを目指しています。

参加者の声

・もっとお店のことがしりたいです。
・つぎは、しんじゅくのことを知りたいです。
・町の中のいろんな人が、ぼくたちのためにはたらいているのがわかった。
・お店の人たちがお客さんのために、心をこめてはたらいて、いいなと思いました。



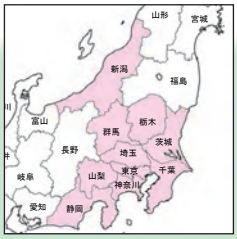
①お店調べの様子。②まちめぐりの様子。③発表会の様子。

プログラムの流れ

ステップ1
　まちめぐり①学校周辺のまちを巡る
ステップ2
　まちめぐり②全体のまちめぐりのまとめをする
ステップ3
　まちめぐり③方向別のまちめぐり（グループ別）
ステップ4
　まちめぐり④方向別のまちめぐりのまとめをする
ステップ5
　まちめぐり⑤方向別のまちのすてき発表会
ステップ6
　もっとなかよしまちたんけん①おすすめツアー
ステップ7
　もっとなかよしまちたんけん②計画
ステップ8・9
　もっとなかよしまちたんけん③④交流1,2
ステップ10
　もっとなかよしまちたんけん⑤発表の計画
ステップ11・12
　もっとなかよしまちたんけん⑥⑦発表会

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r13



神奈川県

学校林から“青根の輝き”を伝えよう

基にしたモデル的なプログラム：里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう
作成団体名：豊田市立西広瀬小学校
地域プログラム化メンバー：麻布大学環境教育研究会・あざおね社中、相模原市立青根小学校、相模原市教育委員会、相模原市立青根中学校、神奈川県環境農政局環境部環境計画 課、相模原市青少年指導員連絡協議会、さがみはら環境まつり実行委員、相模原市立環境情報センター、株式会社さがみはら産業創造センター
実証協力校等：相模原市立青根小学校

ESDの要素：多様性 相互性 有限性 公平性 連携性 責任性
能力／態度：多面 伝達 協力 関連 参加 その他

プログラムの概要

本プログラムは、河川の上流域に位置し、里地・里山に隣接する学校において実践をしたものです。学校林・川・畑・田んぼなど子どもたちが学習活動に携わるフィールドすべてを「里山ビオトープ」として捉え、環境教育を実践します。ビオトープの利用は多岐にわたりますが、マップ作りでは、地域の自然環境・文化の豊かさを実感し、学校林での活動では、間伐材の利用や森が生み出す水の役割を体得することができます。里山ビオトープでの学びは、ふるさとの価値を発見し、ふるさとへの愛着を育む活動であると言えます。この学びを発信し、河川を介した水のつながりの中で、共に学びを高め合うために上・下流域の学校と交流します。

①相模川の中流で自然観察。②江之浦漁港で磯の自然観察会の様子。③小田原市立片浦小学校で学びの交流

プログラムの目標

①学校林での活動を通して地域の良さに気づくとともに、ふるさとに生きる人々や地域の歴史・文化にも関心を広げ、地域に対する親しみと愛情を深めつつ、学校内外の人たちと連帯して里地・里山を大切にし、ふるさとを守っていこうとする意欲と態度を育てます。
②ビオトープ（主に学校林）の観察学習や整備活動、他校との交流を通して聞く・書く・伝える力や共感・尊重する態度を育てます。
③地域の自然や文化とそこに生きる人々にかかわる豊かな体験活動から、自ら課題を見つけて仲間とともに主体的に課題を解決する力を育てます。

プログラムの流れ

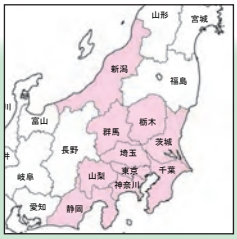
1・2時間目
　青根を紹介するマップづくり
3時間目
　マップ発表のリハーサル
4時間目
　環境まつりでマップを使って発信
5時間目
　海と川を行き来する生き物調べ
6時間目
　鮎の一生を知ろう
7・8時間目
　ぼくたち、私たちの青根を紹介しよう
9・10時間目
　道志川、相模川の上流・中流・下流の観察を通して水とかかわっているものを調べる/
　海の生き物と水のかかわりを調べる/
　片浦小学校と交流しよう
11・12時間目
　活動をふり返ろう

参加者の声

・青根で流した水がたくさんの川を通って海に行くことがわかった。
・川は下流になるほどきたなくなると思っていたが、下水処理、魚、ごみ拾いのおかげできれいだということが分かった。
・片浦小との交流では、みんな自分から積極的に声をかけていてえらいと思った。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r14



新潟県

ミッション!!ビオトープを守り、伝えよう

基にしたモデル的なプログラム：身近な自然と『水』と『生き物』のつながり
作成団体名：特定非営利活動法人　くすの木自然館
地域プログラム化メンバー：みらいずworks、日本自然環境専門学校、NPO法人ねっとわーく福島潟、新潟市立葛塚小学校、水の駅　ビュー福島潟、豊栄地区公民館、宮尾農園、北区教育事務所
実証協力校等：新潟市立葛塚小学校

ESDの要素　多様性　相互性　連携性　責任性

能力／態度　伝達　協力　参加

プログラムの概要

新潟市立葛塚小学校の校舎中庭には、長年子どもたち、地域の人に愛されているビオトープがあります。ビオトープは「ミニ福島潟」とも呼ばれ、自然の宝庫福島潟の貴重な植物が移植されています。今年は専門学校の協力を得て、ビオトープの改修をしましたが、子どもたちはビオトープがどう変化したのか分からない様子。そこで5年生に出されたミッションは「ビオトープの生き物について調べ、その魅力を全校に伝えよ!」。ビオトープの動植物を観察し、興味をもったものを一人一つ選び、図鑑などで詳しく調べます。福島潟でのフィールドワークも経て、福島潟やビオトープの自然の素晴らしい魅力を伝えるプロジェクトを立ち上げ、実行していきます。

①プロジェクト制作物。②ビオトープを守り伝えるためのプロジェクトを立案中。③発表会の様子。

プログラムの目標

福島潟やビオトープについて興味関心を持ち、自ら自然に親しむ姿勢を育てます。また、福島潟やビオトープを下級生に伝えるために、動植物についての理解を深め、それを表現し伝えることを通じて最上級生として福島潟や自校ビオトープを自ら守り伝え続けていく意識を育てることを目標とします。

①ビオトープの動植物について図鑑等で調べ、特性を理解します。②ビオトープと福島潟のつながりを意識し、ビオトープの役割を理解します。③ビオトープや福島潟の魅力について、表現し伝える力を身につけます。

参加者の声

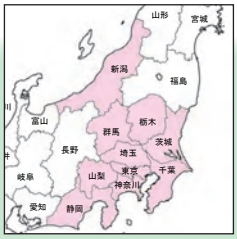
・もっとたくさんの人に植物や生き物の力をしってもらい、興味をもってほしいです。
・自然や環境をよくし、持続可能な地域をもっと広めたいです。
・ビオトープのことや福島潟のことをみんなに伝えるために色んなことを考えました。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r15

プログラムの流れ

1・2時間目
学校内のビオトープの生き物を調べよう
3・4・5時間目
福島潟フィールドワーク/福島潟に棲んでいる動植物を調べてみよう
6・7時間目
ビオトープや福島潟を守るアクションをしている人の話を聞こう
8・9・10・11時間目
ビオトープを守り伝えるためのアクションを考えて行動しよう/プロジェクト立案、準備
12時間目
プロジェクト発表



山梨県

八ヶ岳博士になろう！

～八ヶ岳南麓の自然を知る～

基にしたモデル的なプログラム：「生き物たちとの持続可能な社会を考えよう」
（自然調和型社会学習プログラム）
作成団体名：愛知県岡崎市立新香山中学校
地域プログラム化メンバー：公益財団法人キープ協会、山梨県森林環境部森林環境総務課、山梨県教育庁義務教育課、都留文科大学
実証協力校等：北杜市立小淵沢小学校

ESDの要素　多様性　有限性

能力／態度　未来　多面　関連

プログラムの概要

北杜市立小淵沢小学校では、5年生の総合的な学習の時間で、「八ヶ岳博士になろう！」と題し、八ヶ岳南麓の自然について、子どもたちが各自で題材を選び、調べ学習を進めてきました。今回は、地域の自然を知り、生態系の重要さについて学習すると同時に、「獣害」「ロードキル」など地域で起きている問題に着目し、生き物との関わり方について考え、持続可能な地域づくりに前向きに取り組むようにします。

プログラムの目標

これまで「総合的な学習の時間」で地域の自然を調べていくなかで、児童は自分たちが住んでいる八ヶ岳南麓の自然に今まで以上に愛着を持つことができました。ここでは八ヶ岳の自然に詳しい専門家の話を聞き、学校や学区がかけがえのない豊かな自然に囲まれていることを再認識します。また同時に、地域の生態系が直面している様々な問題にも焦点を当てていきます。

道路や畑など人間が利用する場所と、野生動物の生息環境が重なっているために、食害やロードキルといった深刻な問題が起きています。この問題の現状を調べ、問題解決に向けた取組みについて知り、地域の一員として、地域の自然のために自分たち一人ひとりができることを考えます。

①小学５年生「総合的な学習の時間」として実施。②質問に積極的に答えようとする児童。③標本を用いて、シカの生態について解説。

参加者の声

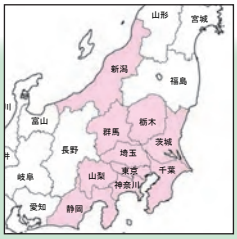
・八ヶ岳にはいろいろな動物や鳥がいることがわかりました。
・もっと八ヶ岳の自然について知りたいと思いました。
・これからは人間のことばかり考えるのではなく、さまざまな動物のためのかんきょう作りの手伝いをしていきたいです。

プログラムの流れ

1・2時間目
地域の自然ここが「いいね！」①②
（ゲストティーチャーの講義）
地域の自然の魅力を再認識する
3時間目
地域の自然で起きていることを知る
4・5時間目
学区の生態系マップづくり
6時間目
マップづくり報告会
7時間目
（講義）問題解決に向けた取り組み①
シカ対策、ロードキル対策
8時間目
（講義）問題解決に向けた取り組み②
アニマルパスウェイの見学
9時間目
生き物との関わり方を考える

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r16



静岡県

ふるさとの海を守り、奇跡の命に寄り添おう

基にしたモデル的なプログラム：ふるさとのきれいな海を守ろう！
作成団体名：環境ボランティアサークル　亀の子隊
地域プログラム化メンバー：NPO法人アースライフネットワーク、静岡県くらし・環境部環境局環境ふれあい課、静岡科学館る・く・る、御前崎市（環境部環境下水道課、教育部社会教育課）、御前崎市立御前崎小学校　実証協力校：御前崎市立御前崎小学校

ESDの要素：多様性　相互性　連携性　責任性　その他

能力／態度：批判　未来　多面　伝達　協力　関連　参加　その他

プログラムの概要

このプログラムでは、子どもたちが「カメのために自分たちに何ができるか」を考え行動していく中で、海の恵みを知り、生命を学び、守り育んでいきます。まず、ふるさとの海とアカウミガメについて調べ、子どもたちの海と生命への興味・関心を高め、「海を見に行きたい」という気持ちを引き出します。次に、実際に海へ行き漂着物を調べ、ふるさとの海が世界につながっていることや、そこにある環境問題に子どもたち自らに気づかせます。最終的に、「自分たちに何ができるか」を考え行動した子どもたちの取組を褒めて、自信を持たせることで、海と生命を守りたいという思いやりの心とそれを伝えていく行動力、活動を継続していく力を育みます。

プログラムの目標

このプログラムは、子どもたちが「カメのために自分たちに何ができるか」を考え行動していく中で、将来にわたり持続可能な社会を創っていく『有徳の人づくり』を目指しています。年間を通して学んだ子どもたちは、ふるさとの海と生命を愛し、守り、誇りに想う心を持つと同時に、自分たちの活動の素晴らしさや大切さに気付き自信を得ます。そして、その想いを自分たちの中だけで終わらせず、外の世界や次の世代につなげていくという責任感を育み、持続可能な社会を創る担い手となっていくことを目標とします。

①御前崎海岸の漂着物から見えるもの（ビーチコーミング）。
②地球を宇宙から眺めてみよう（ダジック・アース）。
③ウミガメを守る活動を通じ、海の恵みと生命への興味・関心を高め、世界とのつながりを学びます。

プログラムの流れ

1・2時間目
ぼくたち＆わたしたちのふるさと御前崎／ふるさとの海について調べよう
3・4時間目
ぼくたち＆わたしたちの友達アカウミガメ／ふるさとの海にすむ生物について調べよう
5～7時間目
海は全てにつながっている／海の漂着物を調べて感じたことを話し合おう
8・9時間目
きれいな海を守るために／自分たちにできることを考えよう
10時間目
ぼくたち＆わたしたちの活動は素晴らしい／活動の意義を知り自信と誇りを持とう
11・12時間目
伝える力！続ける力！未来へつなげる力！／海とアカウミガメのために行動しよう

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r17

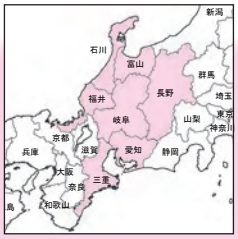
参加者の声

子どもの声
・私たちの活動がすごいことだと感じました。
・御前崎の海の素晴らしさを改めて感じ、これからも海をきれいにしていきたいと思いました。

大人の声
・子ども達にとって、ウミガメの飼育の意味を再確認でき、普段の地道な活動を価値づけるものになったと思います。

中部ブロック

中部ブロックは、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、愛知県、三重県の7県です。
呉羽山、かぶら寿し、ビオトープ、奥山・里山、エネルギー、エコ調査活動、ギフチョウ…。
各県の地域の素材を教材にして、地域とともに、多様な授業が展開されました。
「わたしにできることはなんだろう」。
関わった、つながった子どもも大人も、みんなが考える時間を持ちました。
地域の未来、地球の未来に向けて…。



中部ブロック

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

中部ブロックの概要

中部ブロックは「学校と地域が連携する価値を見出し、連携のための仕組みを残す」を目的に実施しました。各県の取組状況の共有や事業の課題を検討する「形成推進委員会」を設置。実証校の選定や、実証校の授業案を基にした授業づくりと実践、発表会については、各県に形成した「ワーキンググループ」が行いました。中部7県が大切にしたことは、「地域や人々の思いを生で感じ、『私には何かができる』と自分事にし、行動意欲を育む授業づくり」です。「地域らしさ」を感じられる授業にするために、地域の素材を撮影した教材も活用しました。授業や発表会での児童生徒の発言から、授業の「質」を実感し、継続するための「学校を支える仕組みづくり」が課題であるという共通認識を持ちました。課題改善のための主体形成に挑み始めています。

1

2

①、②形成推進委員会　熱く語りあう

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

中部7県のネットワークの目的は、ESD授業の「質」を高めることと、ESDを推進する仕組みをつくること、です。

そのために、多様なステークホルダーに参画いただき、情報や知識、ノウハウの持ち寄りと補完による「これまでにないESD授業づくり」を実現できました。授業課題に応じて、ワーキンググループメンバー以外の、地域の環境活動団体や事業者、専門家の協力を得て、児童生徒の思考を揺さぶる内容が展開されました。このようなESD実践の拡大や、さらなる質の向上を担保するために、地域のシーズによる「ESD推進のための連帯」へと進化しつつあります。

3

③ワーキンググループ 授業実施に向けて検討

中部ブロックに関わる人々

地方事務局

株式会社TREE
特定非営利活動法人　ボランタリーネイバーズ
環境省中部環境パートナーシップオフィス

中部ESD環境教育プログラム形成推進委員会（敬称略）

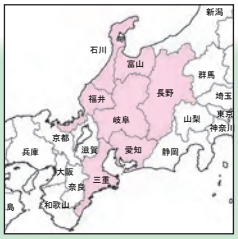
地域	氏名	所属
富山	松本　謙一	富山大学人間発達科学部教授
石川	鈴木　克徳	金沢大学環境保全センター長・教授
福井	前園　泰徳	福井大学教育地域科学部特命准教授
長野	中澤　朋代	松本大学総合経営学部 観光ホスピタリティ学科専任講師
岐阜	巽　　徹	岐阜大学教育学部教授
愛知	千頭　　聡	日本福祉大学国際福祉開発学部教授
三重	松岡　　守	三重大学教育学部教授

各県ワーキンググループ構成メンバー

地域	団体名
富山	富山大学、富山市立古沢小学校、富山市立神通碧小学校、環境教育ネットワークとやまエコひろば、富山県生活環境文化部
石川	金沢大学、金沢市立泉中学校、キゴ山少年自然の家、金沢エコライフくらぶ、石川県環境部
福井	福井大学、坂井市立鳴鹿小学校、NPO法人エコプランふくい、ふくいユネスコ協会、福井県安全環境部
長野	松本大学、信州大学、松本市立源池小学校、中信地区環境教育ネットワーク、　一般社団法人長野県環境保全協会、体験創庫かけはし、長野県環境部
岐阜	岐阜大学、岐阜市立長森南中学校、NPO法人e-plus生涯学習研究所、岐阜県環境生活部
愛知	日本福祉大学、東浦町立緒川小学校、NPO法人もりの学舎自然学校、愛知県環境部、名古屋市環境局環境企画部
三重	三重大学、名張市立薦原小学校、名張市教育委員会、四日市大学エネルギー環境教育研究会、四日市自然保護推進委員会、三重県環境生活部

問い合わせ先

環境省中部環境パートナーシップオフィス
〒460-0003　名古屋市中区錦2-4-3　錦パークビル4F
電話：052-218-8605　FAX：052-218-8606
E-mail：office@epo-chubu.jp



富山県

ぼくらの里山『呉羽山』

基にしたモデル的なプログラム：「生き物たちとの持続可能な社会を考えよう」
（自然調和型社会学習プログラム）
作成団体名：愛知県岡崎市立新香山中学校

実証協力校等：富山市立古沢小学校

ESDの要素　相互性　連携性　責任性

能力／態度　伝達　協力　関連　参加

①里山体験の感想や思いがたくさん！②世界の里山の映像です。 ③みんなの学びの記録

プログラムの概要

学校の近くにある「呉羽丘陵」は自然豊かな里山です。しかし児童の生活と里山との接点がなく、関心がほとんどありません。この授業では、「里山の大切さを知り、できることをしよう」という意欲を育みます。まず、里山に出かけます。次に、「里山ってどんなところ?」「呉羽山の今と昔の違い」の映像で、地域のお年寄りによる昔の里山と暮らしの話や、里山保全活動をしている人へのインタビューから、里山の良さと地域課題を理解します。地域の竹伐り作業に参加し、自分にできることを体験し、活動している人の思いに触れます。最後に映像から、人と共生しながら守られている世界の里山について学びます。時間軸、人、地域、世界のつながりから、「呉羽山」が近しくなります。

プログラムの目標

里山にはたくさんの生き物が生息し、生命が育まれていることを知り、自分たちの身の回りの豊かな自然に気づき、大切にしていこうとする気持ちを育みます。里山や里山に生きる動植物を守ろうと活動する人々の思いや努力を知り、「自分たちにできること」を考え実行する力、自分達で問題意識をもって活動したり調べたりして問題を解決する力、積極的にフィールドワークに参加し、自分の考えを表現すると共に他の人の考えをしっかり聞く力、を育みます。また、自分が役に立てる、地域のために何かできるという自信、主体性、意欲を高めます。

参加者の声

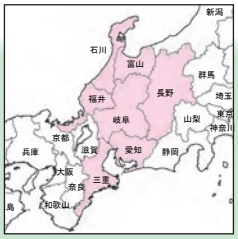
・きんたろう倶楽部さんが大変な作業を笑顔でしていたので、すごいと思った。
・竹きりや下草刈りなど、きんたろう倶楽部の人たちがしていることをしたい。
・手入れをして、木が大きく育つようにして森の生き物がすめるようにしたい。
・自分たちが森のために役に立つことができて、うれしい。

プログラムの流れ

1～5時間「ぼくらの呉羽山」
呉羽山を観察する（2回）。
6～13時間目「ぼくらの里山『呉羽山』」
里山、呉羽山について学ぶ
【映像①】里山ってどんなところ？
【映像②】呉羽山の今の自然
【映像③】昔の自然と暮らし
自分たちにできることはないか考え、活動する。
活動している人にインタビューに行く。
里山の自然を守る活動に参加する(2回)
活動している人の話を聞く。
14～15時間「活動のふりかえり」
がんばった自分たちをふりかえる。
【映像④】きんたろう倶楽部の活動と思い
【映像⑤】地域の方の里山への思い
【映像⑥】世界の里山
学習を通して考えたことをまとめる。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r18



石川県

金沢の環境が育んだ食

基にしたモデル的なプログラム：公園、探検・発見・ほっとけん！…誰が？、FOOD!
～食を通して世界とのつながりを考える～
作成団体名：幕張ベイタウンにエコパークをつくる会、公益財団法人岡山県環境保全事業団

実証協力校等：金沢市立泉中学校

ESDの要素　相互性　有限性　連携性　責任性

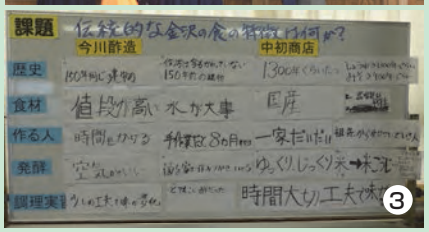
能力／態度　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

「伝統食」を題材とした授業です。金沢の味を支えるものを観点として、校区内にある金沢の食文化を受け継いでいる老舗を見学し、インタビューを行います。また、調味料の使い方、調理方法による味の違いなど実習で学習します。金沢の食文化を受け継いでいる人に出会い、伝統や文化の価値に触れ、金沢の食文化を育んだ環境に気づきます。一方で、保護者に「食」についてのアンケートを依頼し、老舗見学時に撮影した映像を視聴していただきます。その結果から、作り手と買い手がつながることで「伝統食の価値」が守られることを認識します。そして、金沢の食文化や環境を守り伝えるために何ができるのか考え、地域社会への参画、行動を導きます。

プログラムの目標

施設見学や体験活動(調理実習)、専門家からの話を通して、金沢の食文化を育んだ地域の環境、風土や歴史について学び、理解を深めるとともに、守り伝える意識を育てます。調べ学習や体験活動を通して、地域の伝統を守ることの価値や地域と自分の暮らしのつながり等を理論的、多角的に思考する力、伝統的な金沢の食の良さを確認し、地域の環境、風土、生産と販売、生活者の視点から受け継ぐために自分にできることを考え、実行する力を育みます。



①調理実習「和食の決め手はなんだろう？」②老舗「今川酢造」を訪問、インタビューしました。③「金沢の味の特徴は？」をまとめました。

プログラムの流れ

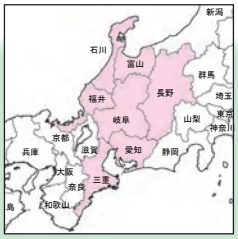
1時間目
金沢の伝統食「かぶら寿し」試食
「多様な味の成り立ちを考える」
2時間目
老舗見学のための課題設定、インタビュー内容の作成
「金沢の味に欠かせないものを考える」
3時間目
老舗見学
(味噌・醤油・酢・かぶら寿し、漬物)
4時間目
調理実習「和食の決め手は何だろう」
5時間目
ふりかえり
老舗見学先の映像を視聴し、作り手からのメッセージをふりかえる。
6時間目
前時をふりかえり、金沢の食について学んだこと、考えを発表する。
【映像】郷土の食について
家庭でのアンケート結果で把握した現状、映像から考えたことを発表する。

参加者の声

・人に優しくあるよう、環境に優しくあるよう、工夫して食物を育てていることを学びました。
・一つのものを大量に作らず、じっくり作ることの大切さを学びました。
・守るためには、金沢の食を大切に食べることが大切だと思います。
・私の生まれるずっと前から受け継がれていて、昔の人も今の人も同じ味の同じ物を食べていることはとてもスゴイことで、ステキなことだと思います。私たちも受け継いで伝えていきたいです。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r19



福井県

ビオトープの再生を通して、地域の特性や持続可能性を考えよう

基にしたモデル的なプログラム：「里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう」
作成団体名：豊田市立西広瀬小学校

実証協力校等：坂井市立鳴鹿（なるか）小学校

ESDの要素：多様性　相互性　連携性　責任性

能力／態度：批判　未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

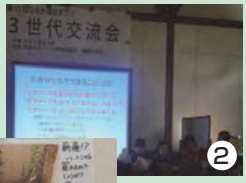
学校には約10年前に造られたビオトープがありましたが、維持管理や調査活動が十分にされなかったため、外来種が優先し、池の水も富栄養化が進んでいます。また、児童は、ビオトープや生物、地域の自然への興味があまりない状況にあります。この授業では、「ビオトープの再生」を通して、地域の自然の変遷を知り、地域全体で人と自然の調和を目指すために、どのようなことが必要なのかを、体験を通して学びます。具体的には、ビオトープの生物調査や地域の高齢者へのアンケート調査等を行い、その結果と児童の提案を地域の大人に発信することにより、地域ぐるみでビオトープを再生し、様々な世代との交流によって、地区全体の持続可能性を高めます。

プログラムの目標

学校で見られる生物を通して、命のすばらしさ、生物同士のつながり、人とのつながりを知ることで、生き物の生活と人間の生活の調和を学びます。10年前に造られ、その後学習において十分には活用されなかった「ビオトープの再生」をテーマとし、問題発見力、建設的意見、実現可能性を養います。ビオトープの生き物について学ぶ際に、地域の自然の変遷を知り、理想のビオトープに近づけるための協働や、地域へのプレゼンテーションの力を身につけます。活動を通して、人の話を聞く力、重要なことを抜き出す力、書き取る力を身につけます。地域の自然と人との関わりを通して、持続可能社会の実現に主体性を持ちます。

参加者の声

- ビオトープと鳴鹿を助けるために、活動に興味をもちました。
- みんなに自慢できる新しいビオトープを造る活動を続けたい。
- 生き物がすみやすいように自然は大切。
- だって鳴鹿の自然がなかったら、鳴鹿らしくないから。



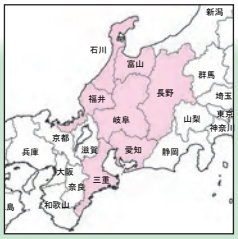
①冬の生き物の暮らしを観察しました。②自分たちにできること、発表。③みんなの観察記「ビオトープだより」

プログラムの流れ

1時間目
ビオトープって何？どんなところ？
2時間目
今のビオトープには何がいるの？
野外活動・生き物観察
3時間目
学校ビオトープの成り立ちを学ぼう！
4～5時間目
ビオトープ再生の目標を決めよう！
6時間目
ビオトープから季節の変化をとらえよう！
野外活動・生き物観察
7～8時間目
昔の鳴鹿について知ろう
9時間目
ビオトープの生き物について詳しく知ろう
10時間目
学校全体をプロデュースしよう！
11～12時間目
自慢できるビオトープにするには？
【映像】他のビオトープの事例
【映像】地域の自然の変遷、小学校のビオトープ

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r20



長野県

信州の山の中で暮らし、歴史、文化、自然を学ぶ

～里山から山岳の中で～

基にしたモデル的なプログラム：「生き物たちとの持続可能な社会を考えよう」
（自然調和型社会学習プログラム）
作成団体名：愛知県岡崎市立新香山中学校

実証協力校等：松本市立源池小学校

ESDの要素　多様性　相互性　有限性　連携性　責任性

能力／態度　未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

山に囲まれた地域に暮らしていながら、「山」を身近に感じられない児童がいます。この授業では、「山を大切にする」気持ちを育むために、「奥山」「里山」をテーマに、山と人間のつながりについて学習します。里山での体験、奥山の様子や里山での保全活動の映像、山岳ガイドや里山保全活動をしている人の話から理解を深めます。里山の歴史や災害等を学び、「どんな里山だったらいいだろう」、奥山については「山道はなんのためにあるのだろう」と投げかけ、自然と人間の共生について話し合いをします。

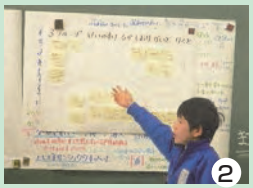
暮らしを取り巻く山の全体像を学習し、意見を引き出しながら「山を大切にするために必要なこと」を考え、全校児童、保護者、地域の人に発表します。

プログラムの目標

里山での体験を通して、山のよさ・豊かさ・働きを知り、自然と人間、動植物が共存していることに気づき、相互につながって生きていることを学びます。グループでの話し合い活動を通して、多様な意見や違いを認めつつ、自分の意見を発言する力、他の意見を受容する力を育みます。発表会に向けて、発表内容の作成における協力する力、共感を得るためのプレゼンテーション力を育みます。生態系の大切さを理解し、人間もその一員であるという意識を育て、多様な視点から奥山・里山を考えることを通して、持続可能な社会づくりに取り組む姿勢、行動意欲を育みます。

参加者の声

- 間伐材を使った小屋を作って泊まってみたい。
- 作家になって里山の素晴らしさを伝えます。
- 自分の子どもを里山につれて行って、自然を感じさせたい。
- 自然いっぱいの里山を未来に残したい。
- 僕は里山を何兆年も守りたいと思う。大人になったらずっと里山に住みたいと思うくらい大切です。



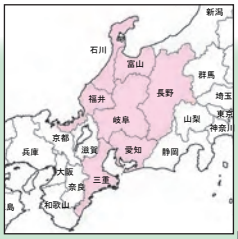
①「この間いった場所だ」。ゲストティーチャーの里山のお話
②「こんな里山がいいな」を発表！③間伐材でつくったベンチ「シカのさぶろう」

プログラムの流れ

1～3時間目
里山体験学習
4～5時間目
間伐材でベンチ作り
6時間
地域活動している人の「里山のお話」
【映像①】昔の里山～現在の里山
【映像②】今の里山について
ワークショップ「里山についてできることは何だろう」
7時間目
山岳ガイドによる人の「奥山のお話」
【映像③】登山体験の映像
ワークショップ「山道はなんのためにあるのか考えよう」
【映像④】鉢伏山の山道
8時間目
学習のまとめ・理解を深める
9時間目
発表会準備
10時間目
学習発表会

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r21



岐阜県

温暖化・エネルギーについて学び、何ができるか考えよう

基にしたモデル的なプログラム：「地球温暖化を学び学校の省エネを考える「フィフティ・フィフティ」プロジェクト」
作成団体名：特定非営利活動法人FoEJapan

実証協力校等：岐阜市立長森南中学校

ESDの要素　多様性　相互性　有限性　連携性　責任性
能力／態度　批判　未来　伝達　協力　参加

プログラムの概要

地球温暖化やエネルギー問題を「自分ごと」にし、省エネ行動や再生可能エネルギーの利用がその解決につながることに気づき、行動へと結びつく授業を行います。エコワットを使った省エネ調査、どちらが省エネ製品かを問うゲーム等を体験し、省エネを意識すると電力使用量が変わることを学びます。学校に設置されている太陽光発電の見学や発電状況の把握から、また、小水力発電事業を実施している人のインタビュー映像から、再生可能エネルギーの特徴や可能性、地産地消エネルギーの存在を知ります。

「今後どのような工夫や行動をするか」「どのようなエネルギーを選択すると持続可能であるか」についてディスカッションをし、行動につなげます。

プログラムの目標

地球温暖化やエネルギー問題の情報を集め、様々な視点から自分の意見をまとめ、発言し、行動する態度を養います。学校及び家庭での身近な省エネルギーの方法の体験を通して、自ら実践する力、実践の結果等を他者に伝えるためのコミュニケーション力を育みます。エネルギー問題を地域の課題として捉え、活動している人のメッセージを受けて、「どんな工夫や選択ができるのだろう」など問いかけ、行動の変化と地域社会への参加意欲を高めます。日本におけるエネルギー事情や発電のしくみ、そのメリット・デメリットなどを学び、どのような供給源としくみが今後の日本社会に必要かについて、批判的かつ多面的に考える力を育みます。

①映像「どっちこっちゲーム」チャレンジ！②学校の太陽光パネルを紹介する先生③1年間の学習を発表。

プログラムの流れ

1～2時間目
地球温暖化とエネルギー問題
新エネルギー・省エネルギーの実験と体験

3時間目
調べ学習
テーマ：温暖化、省エネ、新エネルギー、世界や日本のエネルギー事情など

4時間目
「家庭の省エネ」を考えてみよう
(冬休み２週間実施)

5時間目
省エネ調査のふりかえり
どっちこっちゲーム
（電球編　電池編　車編　発電編）
再生可能エネルギーを知ろう
【映像①②③】再生可能エネルギーとは

6時間目
再生可能エネルギーを広めるためにできること
【映像④】長森南中学校の太陽光パネル
グループワーク「みんなが出来ることはどんなこと」
地域の資源を活かしたエネルギー社会を考えよう
【映像⑤】石徹白の自然と小水力発電
エネルギーの未来のためにできること

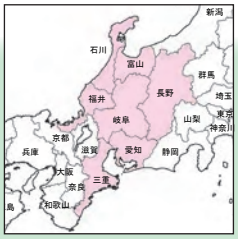
7時間目
環境新聞をつくる

参加者の声

・再生可能エネルギーは他県にどれくらい設置されているか、知りたい。
・日本の自然を発電に生かせることを知った。
・再生可能なものは再生して新しくして使いたいです。
・僕も自分で電気をつくって生活してみたいと思った。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r22



愛知県

環境問題について考え、地球にやさしい活動をしよう

基にしたモデル的なプログラム：「レッツゴー！エコキッズ」
作成団体名：富山市立中央小学校

実証協力校等：東浦町立緒川小学校

ESDの要素：相互性　有限性　連携性　責任性

能力／態度：未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

環境をテーマにした4年生の総合的な学習の時間での授業展開です。「学校エコ調査隊チェックリスト」を作成し、校内のエコ調査活動を行います。「緒川小エコじまん」と「ざんねんエコ」を決定し、「ざんねんエコ」の改善計画を立て、活動をします。「CO2へらすぞ！緒川小チャレンジ～校内エコ活動報告会」では、これまでの活動を映像で振り返り、エコ活動を家庭や地域に広げることや、そのために何を伝えたらよいのかについて意見交換します。映像クイズ「どっちがエコかな？」では、家や地域でできるエコ活動について考えます。「わたしのエコ宣言」を作成して行動に結び付けます。学校の次年度の環境活動目標にし、新4年生に申し送りをします。

プログラムの目標

身近な地域の環境や環境問題について調べて、多様な人々の活動や思いに触れ、自分たちにできることを考える態度を育みます。環境を大切にする気持ちを持ち、環境問題を解決するのは私である、という「当事者意識」を育みます。校内でのエコ調査活動を通して、改善すべき点を発見し、その改善策を考え、行動する「課題を解決するための力」や「実践する力」、学校内で実施したエコ活動が家庭や地域に広がったり、さらに充実したりするための提案づくりを仲間と共に行うことで、「多面的思考力」「未来思考力」を育てます。学習プロセスや、実践による効果などを他者に伝えるコミュニケーション力、参加意欲を高めます。

①映像クイズ「どっちがエコかな？」②校内エコ調査活動について報告。③エコ博士によるみんなへのメッセージ

参加者の声

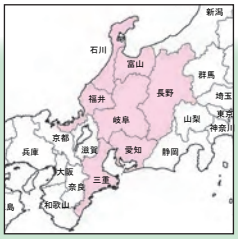
- 「ざんねんエコ」をもっとさがして「ざんねんエコ」を緒川小の「エコじまん」にしたいです。
- 朝のつどいで緒川っ子に伝えたら電気を消してくれる学年がふえた。
- 学校もエコになれる。
- 世界にECOを伝えたい。

プログラムの流れ

1～9時間目
環境問題について知ろう
10～17時間目
環境問題について調べよう
18～33時間目
環境問題について伝えよう
「おがわっ子フェスティバル」
34～35時間目
自分たちにできるエコ活動をしよう
校内エコチェック
36～38時間目
「ざんねんエコ」を改善する。
時間外（休み時間に1週間校内エコ活動）
39～42時間目
校内エコ活動をまとめ、提案づくり
43～44時間目
「CO_2へらすぞ！緒川小チャレンジ～校内エコ活動報告会」
【映像①】校内エコ活動をしている映像
【映像②】フェスティバルの様子（地域へ発信している様子）
【映像③】「どっちがエコかな？」映像クイズ
ゲストティーチャーの講評
私のエコ宣言づくり

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r23



三重県

見つめよう　わたしたちの自然

～ギフチョウから考える薦原の自然と未来～

基にしたモデル的なプログラム：「生き物たちとの持続可能な社会を考えよう」
（自然調和型社会学習プログラム）
作成団体名：愛知県岡崎市立新香山中学校

実証協力校等：名張市立薦原（こもはら）小学校

ESDの要素　多様性　相互性　有限性　連携性　責任性　能力／態度　未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

豊かな自然環境の中で生活している児童には、当たり前にある自然の素晴らしさを実感することがほとんどありません。その価値や大切さに気づくため、ギフチョウをテーマに授業を行います。春には生息地（市が指定した保護区）で観察などを行い、ギフチョウの生態や、なぜ薦原地域に生息するのかを学びます。違う視点で地域を見ることで、豊かな自然が人によって守られ、自然と人とのバランスよい共存が自然環境を作っていることに気づかせます。ギフチョウの保護区には工場等が隣接しており、「開発」に脅かされています。ギフチョウか人間か、児童に問いかけ、自然と人間が共存するために何ができるのかを考えます。地域に愛着と誇りを持ち、行動する力を育む授業です。

プログラムの目標

ギフチョウを通して、自分たちの住んでいる地域を見つめ直し、ギフチョウが生息できる地域の自然環境の希少さに気づき、愛着と誇りを育みます。自然環境を脅かす開発、ギフチョウと人間、開発と自然環境が調和する地域づくりのために、自分たちに何ができるのかを考えます。学んだことをまとめ、理由を明確にしながらお互いの考えを出し合い、発信します。地域の状況や課題を「自分のこと」として捉え、地域の人との出会いや自然観察会を通して、地域の未来をどうしていきたいかを考え、行動する力を育みます。

参加者の声

・一匹一匹にちゃんと命がある。
・人間の命が大切なのと同じように、ギフチョウも命があるから大切だと思います。
・いろいろ自然を守る、手伝いや、自分にできる事をしてみたい。自分のためにも生き物のためにもなるから。
・人間も生きていかないといけない。

①ギフチョウが生きていくために必要なものは何だろう。②自分にできることは何か考えよう。③ギフチョウネットワークのみなさんからのメッセージ。

プログラムの流れ

1～3時間目　ギフチョウを見に行こう
4～9時間目
　ギフチョウについて、さらに調べよう
10～11時間目
　ギフチョウの卵を観察しよう
12～13時間目　調べたことを発表しよう
14～15時間目
　全校のみんなに発信する方法を考えよう
16～19時間目（夏）　薦原の自然を調べよう
20～23時間目　調べたことをまとめよう
24時間目　絶滅危惧種の観察をしよう
25～28時間目（秋）　薦原の自然を調べよう
29～36時間目　全校児童、地域に発信しよう
37～40時間目
　地域の自然を守るためにできることを考えよう
　ギフチョウの観察や、薦原地域の探検から、わかったことをまとめる。
　【映像①】ギフチョウの特徴について
　【映像②】ギフチョウの現状、絶滅の危惧について
　【映像③】ギフチョウの食べ物
　【映像④】ギフチョウがいる僕らの町
　わたしたちの地域を守っていくために、自分たちにできることを考えよう。
　【映像⑤】「伊賀ふるさとギフチョウネットワーク」の活動
　グループで話し合う
　地域の自然の素晴らしさを再確認する
　伊賀ふるさとギフチョウネットワークからメッセージを得る

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r24

解説【3】ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）

ESDで重視する能力・態度として、7つの例を示しています。この能力・態度と関わらせながら、単元目標や授業目標を設定することで、ESDの視点に立った学習指導が展開できます。ただし、能力・態度はこれらに限定されるものではありません。

批判

①批判的に考える力

・合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に施行・判断する力

＜具体例＞
○他者の意見や情報を、よく検討・理解して採り入れる
×得られたデータや考え方を鵜呑みにする
○積極的・発展的に、よりよい解決策を考える
×消極的・悲観的に考え、すぐに諦めて、答えだけを得ようとする

未来

②未来像を予測して計画を立てる力

・過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力

＜具体例＞
○見通しや目的意識を持って計画を立てる
×無計画にものごとを進めたり、その場しのぎをしたりする
○他者がどのように受け取るかを想像しながら計画を立てる
×独りよがりにものごとを進めてしまう

多面

③多面的、総合的に考える力

・人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力

＜具体例＞
○廃棄物も見方によっては資源になると捉えることができる
×役に立たないものは不要だと考える
○様々なものごとを関連付けて考える
×まとまりがなく、断片的な見方をする

伝達

④コミュニケーションを行う力

・自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力

＜具体例＞
○自分の考えをまとめて簡潔に伝えることができる
×他者の意見の欠点ばかりを指摘し、自分の考えを言わない
○自分の考えに、他者の意見を取り入れる
×他者の意見を聞こうとしない

協力

⑤他者と協力する態度

・他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度

＜具体例＞
○相手の立場を考えて行動する
×自分のことしか考えない
○仲間を励ましながらチームで活動する
×身勝手な行動、同調しない態度をとる

関連

⑥つながりを尊重する態度

・人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度

＜具体例＞
○自分が様々なものごととつながっていることに関心をもつ
×自分に直接関係のあることしか関心がない
○いろいろなもののお陰で自分がいることを実感する
×自分は一人で生きていると思い込む

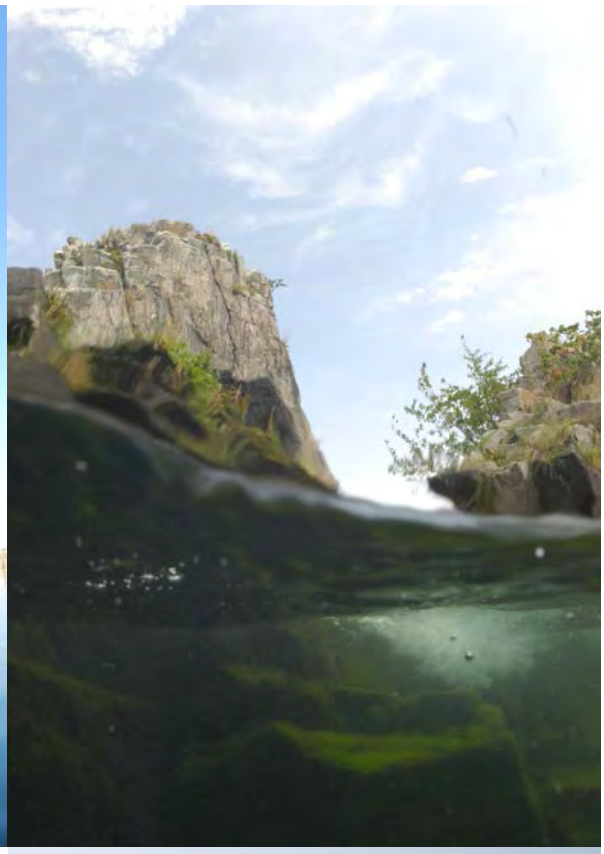
参加

⑦進んで参加する態度

・集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度

＜具体例＞
○自分の言ったことに責任をもち、約束を守る
×無責任な行動ばかりで、きまりを守らない
○進んで他者のために行動する
×自分が得をすることしかしない

国立教育政策研究所　教育課程研究センター
「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」より



近畿ブロック

近畿ブロックは、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。

山々から琵琶湖(右上)に注いだ水は、淀川(左上)へと流れ、滋賀、京都、大阪の街中を通って(左下)、大阪湾(右下)へと流れ込み、近畿に住む私たちののどを潤すと同時に生きものたちを豊かに育みます。
写真提供：城者定史（大阪地区プロデューサー）

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

近畿ブロック

①ESDフォーラムにおけるワークショップの様子
②地域プロデューサー　③実行委員会での協議

近畿ブロックの概要

近畿ブロックでは、学校で既に取り組まれている環境教育の取組を、環境省モデルプログラムにおけるプログラムの流れやESDの視点等を基にして再構築することによって、広がり、深まり、つながりのある取組に発展させることができるという実証に取り組みました。再構築にあたっては、「地域を教材化する」ということに焦点をあて、「効果を高める重要なポイント」として可視化しました（近畿版プログラム集）。実行委員会では、近畿の地域性・文化性を大切にしながらESDをどのように進めていくかという議論を行い、「ESD：いのちをつなげる教育」というキャッチコピーで、プログラム作成や普及啓発事業においてESDの価値観の共有を図りました。

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

近畿2府4県それぞれにおいて、ESDに造詣が深く、教育現場をよく知る方にプロデューサー役をお願いし、各プロデューサーより推薦していただいた実証協力校においてプログラムの作成、実証を行いました。また、学校の先生と自治体環境部署の職員が一緒になって地域について学ぶ場「ESD学びのプラットフォーム」の創出により、これまでの環境教育から一歩進んだESDの取組を地域全体で進めるしくみを目指しました。このプラットフォームによって、それまで気が付かなかった地域の個性や特長が見え、楽しみながらみんなで一緒に持続可能な地域について考えるとともに、学校と社会が連動した環境教育施策が推進されると考えています。

地方事務局

特定非営利活動法人大阪府民環境会議

ブロック実行委員会メンバー／地域プロデューサー

	氏名	所属
有識者	長友　恒人	奈良教育大学　学長
有識者	米田　伸次	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟　理事
滋賀地区プロデューサー	井阪　尚司	元滋賀県環境学習支援センター所長
京都地区プロデューサー	水山　光春	京都教育大学 附属教育実践センター機構長・社会科学科 教授
大阪地区プロデューサー	城者　定史	（学）大阪ECO動物海洋専門学校 教務副部長
兵庫地区プロデューサー	足立　　勲	宝塚市自然保護協会 会長／自然体験教育研究所所長
奈良地区プロデューサー	中澤　静男	奈良教育大学 持続発展・文化遺産教育研究センター 専任講師
和歌山地区プロデューサー	平嶋健太郎	和歌山県立自然博物館 主査学芸員

本事業にご参画いただいた皆様

地域	団体名等
滋賀地区	草津市立渋川小学校、渋川生き物絵図作成支援委員会、滋賀県環境政策課、滋賀県教育委員会学校教育課、草津市環境課、草津市教育委員会学校教育課
京都地区	京都市立嵯峨中学校、京都府環境政策課、京都府教育庁指導部学校教育課、京都市環境総務課、京都市教育委員会学校指導課
大阪地区	阪南市立西鳥取小学校、NPO法人環境教育技術振興会、大阪府地球環境課、大阪府教育委員会小中学校課、阪南市生活環境課、阪南市教育委員会学校教育課
兵庫地区	宝塚市立西山小学校、兵庫県立人と自然の博物館、NPO宝塚市自然保護協会、兵庫県環境政策課、兵庫県教育委員会義務教育課・阪神教育事務所宝塚教育振興室、宝塚市環境政策課、宝塚市教育委員会学校教育課
奈良地区	奈良市立東市小学校、奈良市立鼓阪北小学校、奈良教育大学、奈良県環境政策課、奈良教育大学ESD連続セミナー
和歌山地区	和歌山県立みはま支援学校、和歌山県環境生活総務課、和歌山県教育庁学校指導課

問い合わせ先

近畿環境パートナーシップオフィス（きんき環境館）
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31　OMMビル5F
TEL 06-6940-2001

滋賀県

渋川生き物絵図

基にしたモデル的なプログラム：川は自然の宝箱／身近な自然と「水」と「生き物」のつながり
作成団体名：多摩市立連光寺小学校／特定非営利活動法人 くすの木自然館
実証協力校等：草津市立渋川小学校5年生（3クラス）

ESDの要素：多様性 相互性 連携性 責任性

能力／態度：批判 未来 多面 伝達 協力 関連 参加

プログラムの概要

「生物の多様性」をテーマとして、1年「草花」、2年「草花」、3年「昆虫」、4年「鳥」、5年「魚」、6年「土壌生物」と分担して地域の生き物について調査・観察し、その結果を「渋川生き物絵図」として一枚の絵図にまとめることによって、地域素材の「見える化」と、絵解きによるふるさとづくりを行います。渋川地区で取り組まれている「ふるさと絵図」と呼ばれる60年前の渋川地区の様子を描いた心象絵図との比較を行い、「過去・現在・未来」の時間軸、「池・川・琵琶湖」の空間軸、「お年寄り・親・子ども」の世代軸、「生き物・暮らし・人」の生活軸等の視点から、地域の「つながり」を見つめなおすプログラムです。

プログラムの目標

校区は住宅や集合住宅、店舗等が多く、流れる川も人工的に造られた水路や護岸工事されたコンクリート張りのものがほとんどであり、自然に恵まれているとは言い難く、子どもたちにとっては自然とふれあう機会が圧倒的に少ないのが現状です。そこで地域で自然環境を守る活動をしている方々や地域の学習ボランティアと連携し、地域の自然環境に愛着を持つため自然に触れる体験活動を取り入れた学習によって、郷土に愛着を持ち、守ろうとする態度を培うとともに、様々な視点から地域の環境を見つめなおし、これからの「ふるさと」をよりよい環境にしていこうと主体的に行動できる子どもを育成することを目指します。

参加者の声

春・夏・秋と季節ごとに川に入って魚調査をするとたくさんの種類の魚がいることに気づきました。生き物絵図に描いた生き物いっぱいのふるさと渋川の環境を、これからも守っていきたいと思います。

①全校児童で描いた「渋川生き物絵図」。
②キックオフ宣言の様子。
③生き物絵図作成支援委員会の様子。

プログラムの流れ

1時間目
　計画立案
2時間目
　キックオフ宣言
3～8時間目
　春・夏の調査
9～11時間目
　近隣の小学校との合同調査
12・13時間目
　近隣の小学校同士で成果発表
14～16時間目
　秋の調査
17時間目
　調査結果発表
18～20時間目
　絵図作成
21・22時間目
　絵図お披露目
23～25時間目
　地域の今昔学習
26・27時間目
　まとめ

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r25

京都府

観光地の嵯峨嵐山を体験・調査・参画しておくれやす。

基にしたモデル的なプログラム：「公園、探検・発見・ほっとけん！…誰が？」
作成団体名：幕張ベイタウンにエコパークをつくる会
実証協力校等：京都市立嵯峨中学校2年生（6クラス）

ESDの要素　多様性　相互性　有限性　連携性　責任性

能力／態度　批判　未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

中学校2年～3年生にわたってのプログラムです。地域の環境課題について現地調査・発表を行うプログラムです。さらに、地域の国有林や河川等における個別の環境課題について官公庁・大学・地域の方などから事前学習を行ったうえで現地体験を実施します。また、エコを意識したお土産物を企画し、商品化・委託販売をします。これら一連の学習を通して学んだことを発信する機会として、地域の環境保全や観光振興についてアピールするパレードを企画・実施します。

プログラムの目標

地域独自の景観は、長い歴史に育まれたものであることを多面的にとらえ、地域の川と自然・文化・経済との密接な関わりを理解するとともに、それらを保全するために必要な努力や計画性、多様な主体との連携・協力について認識し、地域の望ましい未来像を考え、主体的に活動できるようになることが目標です。

また、地域社会に貢献する自覚をもって行動する体験を経て、達成感や成就感さらに自己有用感を得ることにより、地域社会づくりの主体者となる資質や能力を育みます。

参加者の声

嵐山を守るためにも、今、嵐山が抱える問題等を知ってもらい、少しでも守らなければならないと思ってもらえれば、嵐山はよりよくなると思う。昔の人が守ってきたこの自然を次の世代として受け継いでいけるようにしていきたい。

①地域の川で水草取りの作業をしました。
②嵐山でのフィールドワークの様子。
③パレードで環境保全を訴えました。

プログラムの流れ

＜2年生＞
1・2時間目
　地域の環境課題に関するレポート
3～27時間目
　環境壁新聞の作成
28～34時間目
　嵐山のフィールドワーク

＜3年生＞
1～7時間目
　地域生態系における外来種の影響に関する学習
8～22時間目
　嵯峨嵐山エコ土産の企画作成
23～43時間目
　「嵯峨中パレード」で環境保全を訴える

＜生徒会＞
植林植樹

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r26

大阪府

西鳥の海に行こう

基にしたモデル的なプログラム：ふるさとのきれいな海を守ろう！／川は自然の宝箱／身近な自然と「水」と「生き物」のつながり
作成団体名：環境ボランティアサークル亀の子隊／多摩市立連光寺小学校／特定非営利活動法人くすの木自然館
実証協力校等：阪南市立西鳥取小学校2年生（1クラス）

ESDの要素：多様性 相互性 有限性 連携性
能力／態度：未来 多面 伝達 協力 関連 参加

プログラムの概要

小学校の3年生がする「西鳥の海」の発表会に参加した2年生が、学習の見通しを持ち、アマモの種まきをし、海に返すプログラムです。その間に、アマモ場周辺に集まるさまざまな生き物の生態を知ることができます。そして、海苔づくりやイカナゴの釘煮などの地域の食文化や地域の方との交流で学んだことを他学年や地域に発信すると共に、地域の方と協力してアマモ場再生に取組みます。

プログラムの目標

「海のゆりかご」といわれるアマモ場の観察により、生物の多様性やつながりを体感することができます。また、人々の生活と海との関係（相互性）に気づき、日常生活において自然環境に配慮しようとする意識を育てます。さらに、地域のアマモ場再生の取組に学校として参加することで、地域の一員であるという意識を育み、地域の方との交流を深めます。そして、地域の自然と人のつながり、地域の文化、自然への愛着などの価値観を身に付けることができます。

①アマモの種取をしました。
②アマモの種を植え付けます。
③いろいろな色と形の海藻でおしばを作りました。

プログラムの流れ

＜2年生＞
1時間目
　３年生の「西鳥の海」の発表を聞いて、アマモの種をもらおう
2・3時間目
　アマモの種まきをしよう
4・5時間目
　「チリメンモンスター」をさがそう
6・7時間目
　海藻おしばをしよう
8・9時間目
　いかなごの釘煮、海苔、寒天づくりの話を聞いて食文化を知ろう
10・11時間目
　「あまもんのプカプカレター」を書こう
12・13時間目
　アマモの植え付けをしよう
＜3年生＞
1・2時間目
　アマモの花枝取りをしよう
3・4時間目
　アマモの種取りをしよう
5～7時間目
　「西鳥の海」新聞を作ろう

参加者の声

3年生の発表はくわしくて、大阪湾の事がよくわかりました。おもしろい魚がいっぱいいることがわかったので大阪湾の海を大切にしようと思っています。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r27

兵庫県

ミヤマアカネ・リサーチプロジェクト

基にしたモデル的なプログラム：川は自然の宝箱／エコシステム学習プログラム／身近な自然と「水」と「生き物」のつながり
作成団体名：多摩市立連光寺小学校／青い地球の会ブルーアース／特定非営利活動法人 くすの木自然館
実証協力校等：宝塚市立西山小学校3年生（4クラス）

ESDの要素：多様性　相互性　有限性　連携性　その他
能力／態度：未来　多面　伝達　協力　関連

プログラムの概要

近年、各地で減少しているミヤマアカネ（兵庫版レッドリストCランクのトンボ）について、卵～成虫の各段階で調査を行います。調査に当たっては、県立博物館や地域の専門家の協力を得ながら、標本作製やマーキング調査などの手法を用い、校区の河川などを中心とする生態系自然の現状と課題を体験的に学ぶとともに、地域に向けて発信します。

生活科、総合的な学習の時間の活動を縦軸に、各学年の教科、遠足、自然体験事業など校外学習活動を横断的に取り扱っています。学年進行とともに生き物と自然環境のかかわりに関する学習を深め、生態系に関する知識を獲得することで、生物多様性に関する知識・理解と保全の在り方を考える態度を養います。

プログラムの目標

多様性：ミヤマアカネという生物種における雌雄差、行動、個体変異などを通して遺伝子の多様性、他の生物との関わりを理解することによって生物種の多様性を学び、校外学習ではミヤマアカネの分布に地域差があることを学び生態系の多様性に気づかせます。

相互性：卵、幼虫（ヤゴ）時代は水中で、成虫になると草原や空間を生息域としており、河川環境や人間生活との関わりが深いことを学び、生物と人間、生物どうしのつながり、共生関係などについて考えます。

有限性：自然観察や生物の採集、飼育を試みる体験活動によって生命の有限性を学び、生命を尊重する態度を培います。

参加者の声

今年は水の中の生き物を調べました。来年はミヤマアカネのヤゴをがんばって育てて、うかさせて、かんきょうフォーラムで発表したいです。がんばって、トンボたちが安心してくらせる さかせ川を作りたいです。

①みんなで逆瀬川たんけんにでかけました。
②ミヤマアカネリサーチの様子とミヤマアカネ。
③環境フォーラムで発表しました。

プログラムの流れ

＜3年生＞
1～12時間目
逆瀬川生き物探検
宝塚市北部の自然に学ぶ
13時間目
4年生の発表に学ぶ
＜4年生＞
1・2時間目
兵庫県立人と自然の博物館見学
3～8時間目
春の生き物
逆瀬川調査
標本作成実習
9時間目
定点観察法を学ぶ・定点観察
10時間目
マーキング調査
11時間目
トンボの絵を描く
12時間目
分布図作成・きづいたことのまとめ
13・14時間目
定点観察のまとめ・考察
15～17時間目
調査まとめ
18～26時間目
発表会に向けた準備
27時間目
発表会
28・29時間目
学年交流会
30～33時間目
まとめ

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r28

奈良県

菜の花の向こうに

基にしたモデル的なプログラム：なたねプロジェクト　見て楽しんで！使った油はリサイクル／環境ウォッチングで提案づくり
作成団体名：株式会社アレフ／公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）
実証協力校等：奈良市立東市小学校5年生（2クラス）、奈良市立鼓阪北小学校5年生（1クラス）

ESDの要素：多様性　相互性　有限性　連携性　責任性
能力／態度：多面　伝達　協力　関連　参加　その他

プログラムの概要

地域の菜の花ボランティアやNPOの協力を得ながら、年間を通じて菜の花を栽培します。理科との関連で植物のつくりについての学習、社会科では伝統工業である握り墨づくり体験、国語科での書写、家庭科では菜種油を用いた菜の花の天ぷらや麦縄の調理など、学年縦断型の学習として展開しています。また採取した菜種油をバイオエネルギーとして活用することで、低炭素社会や循環型社会について学ぶほか、地域の社寺に灯明油として奉納するなど、環境教育と文化遺産教育を融合させているところに特色があるプログラムです。特に社寺での僧侶や神官の話から、幸せや平和という、時代を越えた人々の願いについて学習する機会となっています。

プログラムの目標

菜の花の栽培を通じ、自然環境への関心を高め、生物多様性を尊重する態度を養います。また、菜の花から絞った菜種油をバイオエネルギーとして活用することから地球温暖化について関心を高めるとともに、社寺に灯明油として奉納する活動を通して、文化遺産への関心を高めます。

さらにすべての文化遺産が意図的に守られ、伝えられてきたものであることに気付かせることで、先人の営みを通して地域を誇りに大切に思う心を育て、今もその活動に取り組んでおられる方との出会いを通して、次代を担う当事者意識を養っています。

参加者の声

菜の花をつくるのはだいぶ時間がかかりものすごく大変です。でも、油をしぼっていろんな人のやくにたって笑顔を見れるだけで幸せです。だから、いろんな人に使ってほしいです。

①NPOの方から循環型社会の説明をうけました。
②握り墨を体験しました。
③唐箕での菜種がらとばし。

プログラムの流れ

＜3年生＞
1～3時間目
　植物のつくりの観察
4～7時間目
　菜の花の刈り取り・乾燥・油絞り
8～13時間目
　畑の準備、菜の花の種まき
＜4年生＞
1～10時間目
　菜の花の刈り取り・乾燥・油絞り・畑の準備・菜の花の種まき
11～20時間目
　奈良墨に学ぼう・握り墨体験
＜5年生＞
1～4時間目
　菜の花の刈り取り・乾燥・油絞り
5～10時間目
　地域社寺等の事前学習・灯明油の奉納
11～16時間目
　畑の準備・菜の花の種まき
17時間目
　臨書に挑戦
＜6年生＞
1・2時間目
　循環について学ぼう
3・4時間目
　菜の花のてんぷらを作ろう
5～14時間目
　菜の花の刈り取り・乾燥・油絞り・畑の準備・菜の花の種まき

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r29

和歌山県

地域の水生生物のつながりを調べる

基にしたモデル的なプログラム：川は自然の宝箱
作成団体名：多摩市立連光寺小学校
実証協力校等：和歌山県立みはま支援学校　中等部１年生～高等部２年生（12名）

ESDの要素　多様性　相互性　連携性

能力／態度　批判　未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

川と海で生き物を採集し、それぞれの名前と特徴、生息環境を学芸員の解説や質疑応答で学び、生物同士の関わりや違いについて考えるプログラムです。あわせて、地域の河川や海岸の状態について学芸員の説明を聞き、地域の特色や問題点をまとめます。

写真撮影やインターネットを使ってまとめを行い、文化祭や全校集会で発表を行うことによって、普段は学年や学部の違い等によってふれあうことが少ない生徒たちとも調査内容や探究の楽しさについて共有します。また、採集した生物の飼育観察を行い、その生物について深く知ると共に、まとめの発表時に、他の生徒に触察体験をさせます。この際、正しい触り方など生物の取り扱いについて学びます。

プログラムの目標

豊かさを残しつつも、外来種や山林の荒廃、人間による撹乱にさらされている海や川で生物を採集し、それらの生活を知ることで、生物の多様性だけではなく、海と川、山を行き来する生き物、物質の巡りを理解し、人も含めた生物のいのちのつながりに気づくことを目標としています。さらに、自身がどのような関わり方ができるのか、という点にまで踏み込んで考えを導くことで、未来に生き物が豊かな環境を保つにはどうしたら良いのかを探るきっかけとします。

①磯の生物採集中。
②事前に講義をうけて学習します。
③各自で作った資料を整理して発表に備えます。

参加者の声

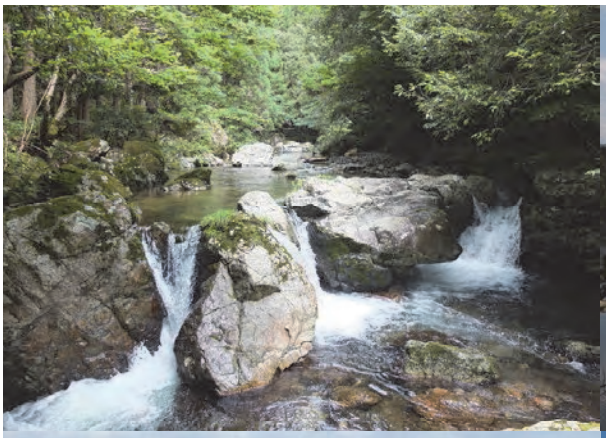
フィールドワークの時にその生物に出会うめぐり合わせを感じました。来年、再来年とフィールドワークを重ねていろんな生物と出会いたいです。

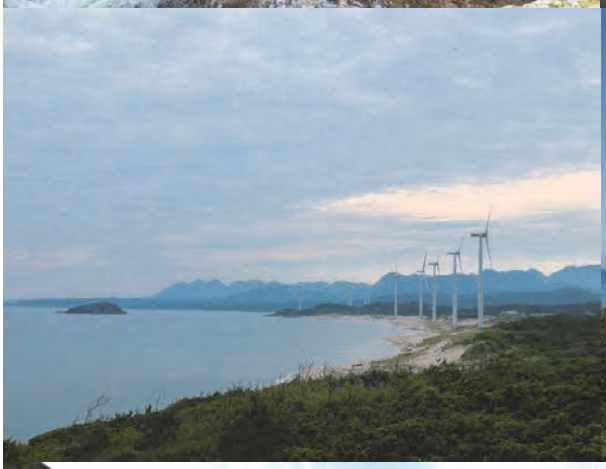
プログラムの流れ

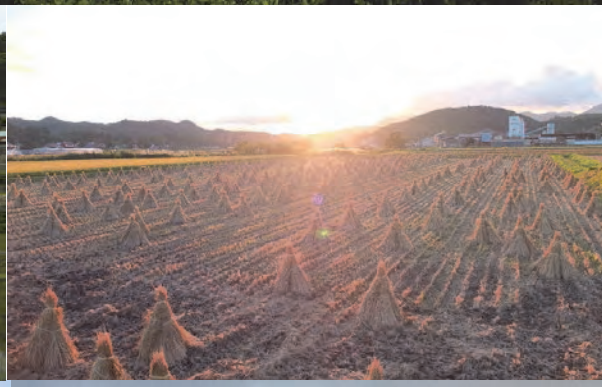
1・2時間目
　川での採集に関する事前学習
3・4時間目
　川での生物採集
5・6時間目
　海での採集に関する事前学習
7・8時間目
　海辺（逢母磯）での生物採集
9～14時間目
　まとめ
15時間目
　文化祭発表
16～18時間目
　まとめ
19時間目
　全校集会発表

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r30



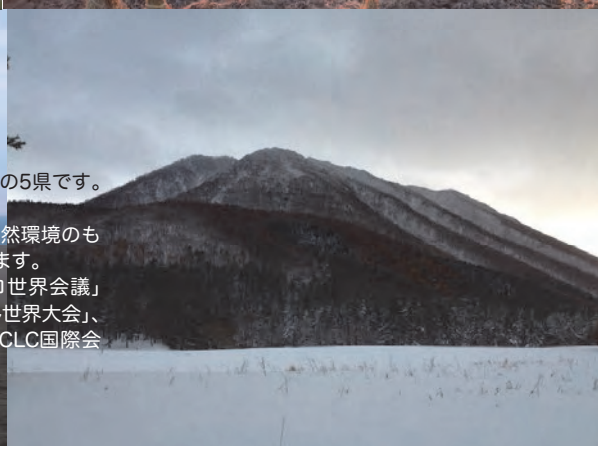




中国ブロック

中国ブロックは、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県の5県です。

中国地方は、瀬戸内海や日本海、中国山地などの多様な自然環境のもと、山・川・海・島が織りなす文化や暮らしが営まれています。
2014年秋には、岡山市において「ESDに関するユネスコ世界会議」のうち、各種ステークホルダーの会合（「ユネスコスクール世界大会」、「ユース・コンファレンス」、「ESD推進のための公民館-CLC国際会議」、「グローバルRCE会議」）が行われます。



中国ブロック

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

中国ブロックの概要

中国ブロックでは、中国各地においてＥＳＤ・環境教育分野に精通している団体等のコーディネートにより実証校等の選定とワーキンググループを立ち上げ、地域性やネットワークを活かしたＥＳＤプログラムの作成及びＥＳＤの普及・啓発を実施しました。

また、本事業を中国5県で推進するにあたり、事業の目的及び方針を各県のワーキンググループで共通理解すること、事業を効果的に実施するための手法等の検討、最終成果を中国地域全体で取りまとめる場として実行委員会を設置し開催しました。

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

実行委員会を、ＥＳＤ・環境教育分野に関する専門家や有識者、教育関係者、メディア関係者、各県ワーキンググループ代表者、中間支援組織から構成したことにより、実証校等の選定における学校への打診の支援やＥＳＤプログラム作成のための助言、今後に向けた事業のスキームの検討等を行うことができました。

また、事業成果の発表及び中国地方のＥＳＤ推進を目的としたパネルディスカッションを開催し、学校と地域の協働が織りなすＥＳＤの可能性について、事業関係者と参加者が共に学びあい、新たなつながりが生み出されました。

①環境イベントにて来場者にESDを解説しました
②多様な関係者による実行委員会の開催
③実証団体等によるパネルディスカッション

地方事務局

特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター

ブロック実行委員

氏名	所属
池田　秀雄	広島大学大学院国際協力研究科
志賀　誠治	NPO法人ひろしま自然学校
中越　信和	広島大学大学院国際協力研究科
河本　良子	株式会社中国放送
古川智恵美	中国環境パートナーシップオフィス

ワーキンググループ

地域	団体名
鳥取県	特定非営利活動法人ECOフューチャーとっとり
島根県	公益財団法人しまね自然と環境財団
岡山県	公益財団法人岡山県環境保全事業団
広島県	特定非営利活動法人これからの学びネットワーク
山口県	周南市中央図書館

問い合わせ先

環境省中国地方環境パートナーシップオフィス
〒730-0013　広島市中区八丁堀16-11　日本生命広島第二ビル2階
TEL：082-511-0720　FAX：082-511-0723
E-mail：info@epo-cg.jp

鳥取県

世界とつながり未来につなげよう！

基にしたモデル的なプログラム：「ちがう国でもおなじこと」
作成団体名：京都市立境谷小学校
地域プログラム化メンバー：特定非営利活動法人ECOフューチャーとっとり、八頭町立郡家西小学校、公益財団法人青年海外協力協会 中国支部、独立行政法人国際協力機構 鳥取県JICAデスク
実証協力校等：八頭町立郡家西小学校

ESDの要素　多様性　相互性　有限性

能力／態度　未来　多面　伝達　関連

プログラムの概要

地球とずっと生きるためには、外国の人々とお互いの文化や生活習慣を理解し、お互いに認め合うことや、世界の国々が協力して考え続けていくことが大切です。

このプログラムでは、小学校社会科のまとめとして、世界の国々で活躍する日本人との交流や世界の食べもの・音楽・遊びなどとのふれあいを通じて、多様な生活や文化を体験的に学びます。そして、世界で起こっている問題に対して自分たちができることを考え、中学校進学に向けた学習意欲につなげるものとします。

プログラムの目標

青年海外協力隊で活動した人や地域に暮らす外国人との交流を通じて、世界の国々の生活や文化を知り、自分たちが当たり前と感じている生活との違いや、その背景にある世界の問題について興味を深めます。

また、世界で起こっている問題と自分たちの暮らしとのつながりについて理解すると共に、わたしたちと世界中の人々・将来世代の人々が生き続ける未来をどうつくっていくのかを考え、そのために自分ができることをまとめます。

①青年海外協力隊の活動について話を聞きました。②みんなでモロッコの音楽とダンスを楽しみました。③世界の国々と日本の生活の違いについてディスカッション。

参加者の声

・いろんな行事や文化があって、同じ人間でも住む所（国）がちがうと、くらし方や食べ方もちがうことが分かりました。
・みんなで遊んだり学んだりして、国の交流は分かり合い理解することが大切だと思いました。

プログラムの流れ

1時間目
　世界で活躍する日本の人々
2時間目
　世界を知ろう
3～4時間目
　世界の生活や文化と交流しよう
5時間目
　世界で起こっている問題
6～7時間目
　自分たちの暮らしと比べてみよう
8時間目
　世界とのつながり
9時間目
　これからの世界、これからの日本
10時間目
　自分ができることを考えよう

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r31

島根県

地域を守る・伝える絵本作家になろう！

基にしたモデル的なプログラム：力を合わせて絵本作家になろう！
作成団体名：NPO法人中国・地域づくりハウス
地域プログラム化メンバー：大田市立北三瓶小学校、公益財団法人しまね自然と環境財団（島根県立三瓶自然館サヒメル）、環境教育事務所Leaf
実証協力校等：大田市立北三瓶小学校

ESDの要素：多様性　相互性　有限性　責任性

能力／態度：未来　伝達　関連　参加

プログラムの概要

カルデラを残す火山地形と山麗に牧歌的な草原景観が広がる三瓶山（国立公園）では、近年、温暖化などの環境変化や外来種の繁殖、違法な動植物採取などが問題となり、地域住民が自然環境の保護・保全に取り組んでいます。

このプログラムでは、地域の小学校・博物館・住民団体が協働で、草原の荒廃や盗掘によって激減しているオキナグサ（島根県の絶滅危惧種Ⅱ類）を栽培・移植して環境再生を図ると共に、絵本づくりを通して地域の自然環境の素晴らしさや保護・保全活動を啓発します。

プログラムの目標

博物館の学芸員の指導の下、オキナグサの生態や激減している理由を調査し、自分たちの生活や社会活動がオキナグサなどの自然環境に与える影響について理解を深めます。そして、地元の住民団体といっしょにオキナグサの栽培と移植に取り組むことで、自分の身近な環境に対する関心を高めます。

環境問題や自然保護に造詣の深い絵本作家といっしょに、環境学習・活動の体験から学んだことや、オキナグサの保護・保全に向けたメッセージを絵本で表現することを通して、人と自然のつながりや関わり方について考え、それを他者とわかちあうきっかけとします。

①カルデラについてお話を伺います。
②絵本づくりについて指導をいただきました。
③自分で絵本づくりにチャレンジ。

参加者の声

・絵本作家さんのお話を聞いて、もっと自然を体験していきたいと思いました。
・自然を大切にしたいと思いました。また、自分の好きなことをするのも大切だと思いました。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r32

プログラムの流れ

1・2時間目
　地域の自然とふれあおう
3～6時間目
　オキナグサを育てよう
7・8時間目
　シナリオを描こう
9～11時間目
　絵本をつくろう
12・13時間目
　メッセージを伝えよう

岡山県

食と環境のつながりについて考えよう

基にしたモデル的なプログラム：FOOD ！～食を通して世界とのつながりを考える～
作成団体名：公益財団法人岡山県環境保全事業団
地域プログラム化メンバー：岡山市立京山中学校、公益財団法人岡山県環境保全事業団（環境学習センター「アスエコ」）　実証協力校等：岡山市立京山中学校

ESDの要素　相互性　有限性　公平性　連携性

能力／態度　批判　未来　多面　伝達　関連

プログラムの概要

一枚の「ハゲワシと少女」の写真から世界の途上国における諸問題について知ることに始まり、身近な「食」の視点から、私たちの日常生活が環境問題や食糧問題、貧困問題の原因となり、世界とつながっていることに気づかせます。これらの問題に関する様々なデータや写真から各問題の関連を考え、資源の有限性を考えるワークを体験し、問題解決のために自分たちに何ができるかを考え、行動へつなげます。

プログラムの目標

本プログラムの柱となるのは、英語科リーディング教材に関する知識や情報を多様な専門家の方々からの講話や資料、ワークショップを通して学び、そこからの気づきをもとに考えや行動指針を生み出し、英語でプレゼンテーションする内容です。学習内容を通して、生徒は貧困や食糧問題に関する語彙を学んだり、英文資料を読み聞きし、国際的な課題に対する考えを英文エッセイに記したり口頭で発表したりすることができます。

①英語を使いながら議論や発表を行いました。
②グループでワークショップを体験。③食料問題解決のカギとなるキーワードを英語とイラストで表現しました。

プログラムの流れ

1時間目
　ドキュメンタリービデオの視聴
2時間目
　1枚の写真から何が読み取れるだろう
3時間目
　記事から2つの視点を読み取ろう
4時間目
　自分の意見を発表しよう
5時間目
　スーダンについて知ろう
6時間目
　食べものを作るには何が必要なのか考えよう
7・8時間目
　食と環境のつながりを知ろう
9時間目
　食料問題を解決するために必要なことをまとめよう
10時間目
　食料問題に関するエッセイの清書を書こう
11時間目
　発表の準備をしよう
12時間目
発表をしよう

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r33

参加者の声

・In my daily life, I'd like to learn about wars in the world more. I'd like to tell people the importance of world peace to save the earth.
・In my daily life, I have to understand about the self-sufficiency rate more. In the future, I'd like to actions to save the world, I'd like to start from easy actions.

広島県

里海たんけん隊

～ふるさとの海の発見！感動！ SOS ！～

基にしたモデル的なプログラム：ふるさとのきれいな海を守ろう！
作成団体名：環境ボランティアサークル　亀の子隊
地域プログラム化メンバー：特定非営利活動法人これからの学びネットワーク
実証協力校等：広島市廿日市市宮島包ヶ浦自然公園

ESDの要素　多様性　相互性　有限性　責任性

能力／態度　未来　多面　伝達　関連　参加

プログラムの概要

瀬戸内海国立公園にある宮島は日本三景のひとつであり、豊かな自然と歴史的建造物による風光明媚な場所です。しかし、近年、赤潮の発生や藻場・干潟の減少、海ゴミ（漂着・海底ゴミ）が原因で、海辺の生態系への影響が問題となっています。

このプログラムでは、海辺の自然の素晴らしさとそれらを取り巻く環境の現状を知り、瀬戸内海の豊かな自然を守るために自分たちが取り組める方法を考えてチャレンジします。

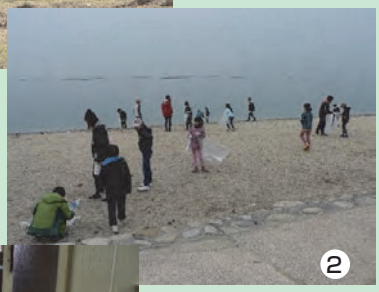
プログラムの目標

海辺での自然観察やクリーンアップ活動を通じて、海にはおもしろくて貴重な生き物がいるという生態学的な理解や、海は楽しい場所、心地よい場所という感覚的な実感を育み、瀬戸内海の豊かな環境に対する愛着を養います。

そして、海岸に流れ寄るゴミを通して、川と海のつながり、人々の生活と自然環境の関わりを理解し、みんなから愛される瀬戸内海を守るために主体的に活動しようとする気持ちを高めます。

参加者の声

・鹿の足跡や香りのする葉っぱなどを一生懸命探して楽しかったです。
・海岸にたくさんのゴミが落ちていたのでびっくりしました。
・自然を大切にしたいです。



①息をひそめて鹿の親子を追跡。
②海岸には見たことがないものがいっぱい落ちていました。
③漂流物の分類結果をまとめました。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r34

プログラムの流れ

1時間目
　海辺に出かけよう
2時間目
　発見しよう
3時間目
　拾い集めてみよう
4・5時間目
　拾い集めたものをわかちあおう
6・7時間目
　漂流物になってみよう
8・9時間目
　自分たちができることを考えよう
10・11時間目
　海を守るために行動しよう

山口県

絵本作家を目指そう

基にしたモデル的なプログラム：「力を合わせて絵本作家になろう！」
作成団体名：NPO法人中国・地域づくりハウス
地域プログラム化メンバー：周南市立中央図書館、なかはらかぜ（漫画家、徳山大学専任教授）
実証協力校等：周南市立中央図書館

ESDの要素　多様性　相互性　有限性　責任性

能力／態度　未来　多面　伝達　関連　参加

プログラムの概要

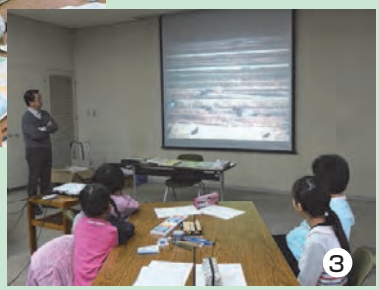
山口県周南市八代は、本州で唯一のナベヅル（特別天然記念物）の越冬地で、日本の自然保護発祥の地でもあります。ナベヅルは毎年10月下旬に中国やシベリアの繁殖地からはるばる渡ってきて、田んぼで羽を休め、八代の人々と共に冬を越します。そして3月になると、春の訪れを待ってふるさとの繁殖地に帰っていきます。そんな八代の地域では、ナベヅルを迎えて送り出す人々や暮らしの伝統が古くから伝わっています。

このプログラムでは、ナベヅルと共生する地域の人々やその暮らしとふれあいながら、専門家から八代に飛来するナベヅルについて学び、地元出身の漫画家といっしょにナベヅルと共生する地域の暮らしを題材とした絵本作りに挑戦します。

プログラムの目標

絵本作りの題材となる地域に出かけて、専門家といっしょにナベヅルの生態や特徴を観察します。そして、ナベヅルと共に生きる地域の人々からその暮らしの伝統や歴史について聞き取り、自分の身近な環境に対する関心を高めます。また、八代に飛来するナベヅルが減少している理由や環境の変化から、自分たちの生活がナベヅルや自然環境に与える影響について理解を深めます。

観察や交流などの体験から学んだことを絵本で表現することを通して、人と自然のつながりや関わり方について考え、それを他者とわかちあうきっかけとします。



①地域で学んだことをテーマにした絵本が完成！
②漫画家さんの指導を受けながら絵本作りをすすめます。
③映像を使ってナベヅルと地域の暮らしについて学びます。

参加者の声

・ナベヅルのことを初めて知りました。
・自分一人の宝物を作っているみたいで楽しかった。
・絵を描くのが好きなのでとても楽しかったです。また参加したいです。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r35

プログラムの流れ

1～3時間目
地域に出かけてそこで暮らす人々とナベヅルに会おう
4・5時間目
シナリオを描こう
6～9時間目
絵本をつくろう
10・11時間目
メッセージを伝えよう
12時間目
自分にできることを考えよう

解説【4】学校における環境教育とＥＳＤへの取り組み

環境教育のねらいは、持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成です。持続可能な社会は、環境だけでなく、社会的公正や経済など幅広い領域と関係することから「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development=ESD）」ととらえ、多分野の教育を積極的に結びつけて取り組む必要があります。

発達への配慮

小学校低学年では、体験や感性が重要であり、学年が上がるに従い、課題発見と解決の実践力、行動を通じた思考・判断能力と、重点となるねらいが変化します。

また、環境教育では、課題を発見し、取り組み、結果をふりかえる一連の過程を経て、さまざまな能力が身につくよう設計することが重要です。

学校全体での取り組み

環境教育には、学校全体で取り組むことが不可欠です。各学校の目標、目指す児童・生徒像を踏まえたうえで、全教職員が環境教育にどのように取組、実践するかについて共通理解しておく必要があります。また、学年間・教科間での連携を積極的に図ることにより、環境教育の効果はより高められると期待されます。

地域・家庭とのかかわり

特に児童にとっては、地域の身近な問題に目を向けた内容を取り上げ、身近な活動から学習を始めることが有効です。

また、環境保全のための取り組みは、日常生活の中でも意識的に行っていくことが求められています。家庭や地域社会と積極的に連携し、学校で学んだことを家庭や地域社会での生活に生かすことができるよう配慮することが必要です。

環境省「授業に活かす環境教育－ひとめでわかる学年別・教科別ガイドー」より

四国ブロック

四国ブロックは、徳島県、香川県、愛媛県、高知県の4県です。

絶えず、人より一歩先の未来を志ざし、倒幕および明治維新に大きな影響を与えた男、坂本龍馬。
そんな龍馬のように四国も今、持続可能な未来を目指して大きな一歩を踏み出しています。いざ、
四国ESD維新ぜよ！

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

四国ブロック

四国ブロックの概要

四国では、2003年の「ESD地域ミーティング in 愛媛」以降、4県それぞれ豊かな自然環境や地域の特性を活かしたESDの取り組みが始まり、その後、2007年に開設された四国EPOとともに、多様な主体が連携するESD事例を可視化・共有化してきました。それらは、この約10年間で特定の地域・人的ネットワークを核とした独自のESDとして発展・深化してきましたが、一方で、四国全体を巻き込むほどの面的な広がりや社会変容をもたらすうねりには至らず、道半ばの状況が課題でした。そのため、四国内に点在するキーパーソンを集結して実行委員会を形成し、学校、教育委員会、メディア、NPO、大学等の人・組織・仕組みの相互作用を活用しながら事業を展開しました。

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

今回、四国地域版ESDプログラムを作成するに当たり、活動後も継続して地域ESDの取り組みが行われるよう、4県の実行委員と地方事務局が四国EPOと連携しながら実証校のマッチングを行いました。実証校を決める際は、県や市町の教育委員会や地元NPOから情報を提供してもらうなど、各主体間の連携強化を図りました。その他、この取り組みを幅広い人に知ってもらおうと、四国内の全小・中学校およびNPOへのESDアンケートを実施しました。その結果や現状を踏まえ、実行委員としても協力を得られた地元メディア関係者とともに、テレビ、ラジオ、新聞、インターネットメディアなどを活用し、広くアピールしながら有機的につながっていけるよう工夫しました。

推進体制

地方事務局は、環境省高松事務所や四国EPOと連携し、各県の有識者・NPO・行政・メディアを含む構成員を決めていきました。時間の制約やさまざまな調整の課題を超えつつ、実証校やプログラムを選定していく中で、各地域ごとのワーキンググループと事務局が議論を重ねて事業を実施しました。本事業全体を共有するための「四国ESDシンポジウム」と実行委員会を連続開催し、四国ブロック関係者間とESD推進を図る会議開催地（愛媛県新居浜市）の関係者との連携を深め、ESDの面的な広がりやつながりを創出することができました。

地方事務局

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク

ブロック実行委員会メンバー一覧

地域	委員・所属
高知	内野加奈子（特定非営利活動法人土佐山アカデミー）、押岡茂紀（株式会社西日本科学技術研究所）、笹岡高志（株式会社ＲＫＣプロダクション代表取締役社長）、常石勝（物部川21世紀の森と水の会事務局次長）、浜田恵秀（株式会社高知放送営業部副部長）、宮田和典（高知県林業振興・環境部環境共生課チーフ(四万十川・清流担当)）、渡邊法美（高知工科大学マネジメント学部教授）
香川	池田裕晃（香川県善通寺市役所民生部環境課）、稲垣泰徳（西日本放送株式会社営業局営業部）、井上修（善通寺こどもエコクラブ代表）、川田昭子（香川県環境政策課環境マネジメントグループ課長補佐）、新池美早子（香川県環境政策課環境マネジメントグループ主任）、原直行（香川大学経済学部教授）、森永博文（かがわ環境カウンセラー協議会副会長）
愛媛	宇都宮由紀（松山市立新玉小学校教諭）、河上芳一（愛媛県県民環境部男女参画・県民協働課NPO・ボランティア係係長）、竹宮紀子（松山市立東雲小学校教諭）、羽鳥剛史（愛媛大学大学院生産環境工学専攻環境建設工学准教授）、山内孝雄（南海放送株式会社営業局営業部部長）、吉田健二（公益財団法人松山国際交流協会総務課長）、渡部寛志（特定非営利活動法人えひめ３１１代表理事）
徳島	小澤大成（鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授）、佐野淳也（徳島大学地域創生センター助教）、近森憲助（鳴門教育大学副学長(実行委員長)）、細川威典（阿南市立羽ノ浦中学校校長）、前川昂雅（徳島市市民活力開発センター）、益田一政（四国放送株式会社高松支社支社長）、山﨑順一（特定非営利活動法人徳島環境カウンセラー協議会環境カウンセラー）

ワーキンググループ

地域	団体名	地域	団体名
高知	香美市教育委員会	愛媛	松山市立東雲小学校
香川	善通寺こどもエコクラブ	徳島	阿南市立加茂谷中学校

問い合わせ先

環境省四国環境パートナーシップオフィス（四国EPO）
〒760-0023　香川県高松市寿町2-1-1高松第一生命ビル新館3階
TEL：087-816-2232　　FAX：087-823-5675
E-mail：4epo@4epo.jp

高知県

物部の森のもの知り博士になろう！

～森林保全と生き物たちとの持続可能性を考える～

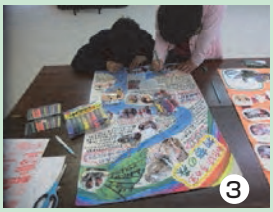
基にしたモデル的なプログラム：「生き物たちとの持続可能な社会を考えよう」
（自然調和型社会学習プログラム）
作成団体名：愛知県岡崎市立新香山中学校
地域プログラム化メンバー：　物部川21世紀の森と水の会、香美市教育委員会、高知工科大学、えひめグローバルネットワーク　実証協力校等：香美市教育委員会、香美市こどもエコクラブ

ESDの要素：多様性　相互性　有限性　公平性　連携性　責任性　その他

能力／態度：批判　未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

物部の森のもの知り博士になろう～森林保全と生き物たちとの持続可能な社会を考えよう～というテーマで、香美市こどもエコクラブの子どもたちが学びを深めました。森林の消滅と山の崩壊につながる獣害、その中でもシカによる食害の影響を学び、世界の現状や対策も学ぶことでシカを捕獲するだけでなく食材として有効活用するなどの、地域の経済活動に活用する方法・可能性を探りました。また、生きもののつながり―生態系―の理解を進める中で、地域の経済活動や自分たちの暮らしが生態系と密接に関係していることに気づき、考えを広げました。



①生態系ってなに？②森の現状をマッピングしています。③発表にむけてみんなで準備しました。

プログラムの目標

山や川が人間や生き物に多くの恵みを与えていることに気づき、生態系を守る大切さを理解するとともに、人間もその一員であるという意識を育てます。一方、身近な地域で起きている山や川の異変を認識するとともに、その原因が地域の開発や生産活動などのほか、シカやイノシシなどによる「獣害」が深刻になっていることに着目し、その原因が獣だけにあるのではなく、わたしたちの社会・経済活動と密接な関係があることや、地域で前向きにとらえる取り組みについて学び、共存の方策を考えるきっかけとします。

参加者の声

・「森は海の恋人、川はその仲人」という言葉の意味を考えると、自分たちが本当に何をすべきなのかをもっと真剣に考えないといけないんじゃないかと思った。
・日本だけでなく、世界に視野を広げなければならないと感じた。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r36

プログラムの流れ

1時間目
　生態系ってなんだろう？
2・3時間目
　物部の森の現状を知ろう
4時間目
　世界の獣害とその対策について知ろう
5時間目
　シカの地域資源としての活用について考えよう
6時間目
　獣害について考えよう
7・8時間目
　今までの活動を壁新聞にまとめよう
9時間目
　生態系や獣害について考えたことを発表しよう

香川県

『樹木の気持ち』とつながろう！

～まちも里海も豊かにする樹木のはたらき～

基にしたモデル的なプログラム：木のパワーを探ろう！ ～使って守る森と住まい・まちの創造人材育成～
作成団体名：一般社団法人日本建築学会

地域プログラム化メンバー：善通寺こどもエコクラブ、香川大学、えひめグローバルネットワーク
実証協力校等：善通寺こどもエコクラブ、善通寺五岳の里市民集いの公園

ESDの要素　相互性　有限性　連携性　責任性

能力／態度　批判　未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

善通寺こどもエコクラブ、香川大学、NPO、えひめグローバルネットワーク（EGN）が協働で、善通寺五岳の里市民集いの丘公園や善通寺市街で活動を行いました。樹木医の指導のもと、参加した児童が「こども樹木医」になって樹木を診断することを通して、理想の公園や、将来の善通寺の町並みを想像し、そして樹木の働きを実感することを目指しました。人間と自然の共生に重要な視点をおき、実際に元気な木や、弱った木に触れて診断を行うことで、樹木の気持ちを考えるきっかけになるようにプログラムを設計しました。また、街の中で樹木がどのような働きをしているかを批判的、多面的に考えることを通じて、まちづくりについて考えることも取り入れました。

プログラムの目標

身近な樹木がどのような体と機能を持ち、どのように生活しているのかを知ることによって、樹木への親しみと関心を高めます。樹木からなる森林の働きによって、水の涵養・二酸化炭素の吸収・酸素の排出・防災及びリラックス効果などがもたらされていることを学び、森林が人間の社会に不可欠な存在であることを理解します。さらに持続可能な社会のためにまちの中にどのような自然が必要なのかを想像し、人間と自然がどう共生するとよいかという視点から、まちづくりを考えるきっかけにします。

①公園に出かけてアイデアを探しました。②街で樹木の様子を観察。③樹木の健康診断に挑戦！

参加者の声

・自分で行動してたくさんの体験をできたと思います。
・自分の意見が言えるようになりました。
・自分から興味をもって参加できるようになりました。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r37

プログラムの流れ

1・2時間目
樹木の生き方発見！
3・4時間目
樹木の健康診断に挑戦
5・6時間目
街路樹ってわたしたちのまちに必要かな？
7・8時間目
わき水の恵みと水路発見
9・10時間目
公園アイデア利用教室

愛媛県

東雲ピカピカESD

～私たちが育てるコミュニティファーム～

基にしたモデル的なプログラム：公園、探検・発見・ほっとけん！…誰が？
作成団体名：幕張ベイタウンにエコパークをつくる会

プログラム作成メンバー：NPO法人えひめ311、愛媛大学、えひめグローバルネットワーク
実証協力校等：松山市立東雲小学校、東雲公園

ESDの要素　相互性　有限性　連携性

能力／態度　協力　関連　参加

プログラムの概要

地域の人たちとの協働で、東雲公園の未利用地を「コミュニティファーム」として活用しました。東雲小学校2年生がサツマイモを育てる農業体験を通して、地域の人々とのコミュニケーション能力を育む学びの場としての創出を目指しました。草引きや水やり、収穫を通じて、循環型社会に向けた自然農法や地域の人たちとのつながりの大切さ、また、草花や土の中の生き物とのふれあいを通して生物多様性の大切さに気付くようにプログラムを設計しました。

さらに、地域防災訓練時に育てたサツマイモを食材で活用することで地域防災力の向上に役立てました。

プログラムの目標

東雲公園の未利用地が「公園ESD」として、地域で根付くようプログラム化します。中学生プログラムとの比較により、時間軸の違いからESD化への考察（学び直し・捉え直し）を行い、ESD評価方法の手立てとなるよう、分析・解析します。また、東雲公園を「環境学習体験の場」として活用し、地域の様々な人々が世代を越えて気軽にふれあえる場とすることで、防災・減災社会づくりにつないでいきます。コミュニティファームにおける野菜栽培を通じて、生きることの最も基本的な要素である「食」とそれを支える「農」について学び体験し、これらの食（命）を育み・命を守る取り組みを地域住民の社会参加の場とし、地域コミュニティをより密なものとします。

①地域の人と一緒にサツマイモを掘りました。②サツマイモでお菓子を作ります。③葉っぱはモザンビーク料理にして食べました。

参加者の声

取り組みに参加する前後でコミュニティファームの絵を描いてもらい比較した。取り組み後の絵では人や虫が多く描かれ、人や自然とのつながりに気づいていた。色は茶色が増えるなどより現実に近いものとなっていた。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r38

プログラムの流れ

1時間目
これまでの活動でお世話になった人たちに感謝を伝えるためには？
2・3時間目
地域の人と一緒にサツマイモ掘りをしよう
3時間目
防災訓練でサツマイモのお菓子を配布しよう
4時間目
にこにこ大作戦～おいもパーティーをしよう～

徳島県

私たちの暮らしと河川環境、生き物のつながり

～水質調査から見えてきたもの～

基にしたモデル的なプログラム：身近な自然と「水」と「生き物」のつながり
作成団体名：特定非営利活動法人　くすの木自然館

地域プログラム化メンバー：徳島環境カウンセラー協議会、鳴門教育大学、えひめグローバルネットワーク
実証協力校等：阿南市立加茂谷中学校

ESDの要素　多様性　相互性　有限性　連携性　責任性

能力／態度　未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

学校周辺の水生生物を調査し、川の水質レベルを知り、人間が使った汚水が、その生物にどのような影響を与えるか考えます。水生生物の調査結果から、水質レベルを把握し、良否を考え、他の流域の水と比較します。流域マップをつくり、どの流域が良いか悪いかを知り、その原因と対策を考えます。汚水の浄化実験を行い、水の浄化と微生物の関係を知り、これを役立てる方法を考えます。自然の水の浄化は、多くの微生物群によるものが大きく作用していることに気づき、自然界における人と社会について考え、どのようにすれば今の水環境が維持、向上できるか自分にできることを考え実行します。

プログラムの目標

多様な自然環境に着目し、そのつながりを調べる中で、学校周辺の水環境にどのような生物がいるかを知り「水」が自分たちを含めた生物にどのような影響を与えているかを考えます。また、生物が水を必要とする生体機能により、水が浄化されることに気づき、水の循環と浄化について考えます。さらに水の流れを知り、点ではなく流域という「面」で捉えることにより、下流域の水質保全をどうしていけばよいか、地域の自然に関する課題を発見し、原因を調査し、対策、実行する力を身につけます。

参加者の声

・普段の生活から気を付けて川の水を汚さないようにしたい。
・汚れたお皿をそのまま洗わず、一度拭いてから洗うようにする。
・自分のいままでの行動を振り返って、悪いところを見直す。

①身近な水生生物調査結果を確認。②水質調査に挑戦しました。③自分たちにできることを考え発表しました。

プログラムの流れ

1時間目
ESD って何？身近な水生生物調査の結果の確認
2時間目
那賀川の自然観察と水質調査に挑戦！
3時間目
水質マップ作り、汚水発生源調査、水浄化実験に取り組もう
4時間目
水質と生き物のつながりについて考えよう
5時間目
川の保全のために自分たちにできることを計画しよう

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r39

九州ブロック

九州ブロックは、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の8県です。

九州・沖縄まなびのプラットフォームが広げる地域の環境力と、
そこからつながる私たちの未来(アシタ)。

九州ブロック

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

九州ブロックの概要

九州・沖縄ブロックでは、日頃から各県で地域に根ざした環境教育・ＥＳＤプログラムを展開しているＥＳＤ活動型のＮＰＯ（非営利団体）を中核とするワーキンググループを設置しＥＳＤプログラムの地域化と実証に取組みました。

地域の専門家や教育関係者を交えたワーキンググループでは、地域化のワークショップを開催し、プログラム実証校と連携しながら、プログラムづくりを進めました。

実行委員会では、九州・沖縄らしさが発揮されるＥＳＤについてのビジョンや、地域のＥＳＤプラットフォームづくりに向けた多角的な意見交換がなされ、地域の持続性を高める学びのあり方について、各県の取組をもとに経験交流を深めました。

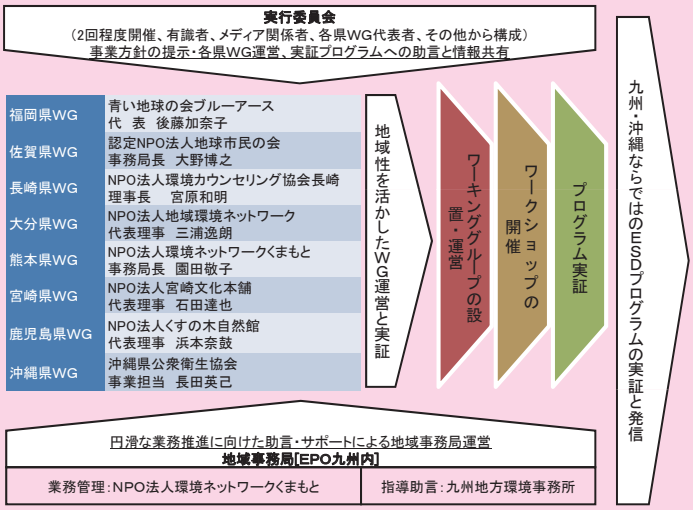
九州・沖縄のESD活動をモチーフにしたロゴとして、広報やイベントにおいて活用しました。

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

ネットワークづくりにあたっては、各県それぞれの団体が構築してきた環境活動や教育に関する日頃のつながりをもとに、実証校や教育専門家への呼びかけを強化し、ワーキンググループとして活動の中核を形成しました。

また、学校がすでに取り組んでいるカリキュラムを最大限尊重し、その取組をさらに活かすプログラムとして、今回の実証プログラムを位置づけました。

特に、地域の教育課題や環境課題に視点をあて、学びのプロセスを深めることに重点をおくことで、地域それぞれのニーズに応じたカリキュラムを志向したと言えます。



九州ブロックに関わる人々

地方事務局

九州環境パートナーシップオフィス／特定非営利活動法人環境ネットワークくまもと

ブロック実行委員

氏名	所属	氏名	所属
篠原　亮太	熊本県立大学　特任教授	宮原　和明	NPO法人環境カウンセリング協会長崎
宮瀬美津子	熊本大学教育学部准教授	大野　博之	認定NPO法人地球市民の会
三宅　博之	北九州市立大学法学部教授	三浦　逸朗	NPO法人地域環境ネットワーク
冨永　好三	熊本県 環境生活部 環境立県推進課	園田　敬子	NPO法人環境ネットワークくまもと
園田千賀子	熊本県教育委員会義務教育課	石田　達也	特定非営利活動法人宮崎文化本舗
佐藤　倫之	西日本新聞社　生活特報部	浜本　奈鼓	特定非営利活動法人くすの木自然館
富田　剛史	トミタプロデュース代表	長田　英己	財団法人沖縄県公衆衛生協会
後藤加奈子	青い地球の会ブルーアース		

問い合わせ先

環境省九州環境パートナーシップオフィス
〒860-0806　熊本市中央区花畑町４－８　熊本市国際交流会館２Ｆ
TEL　096-312-1884　FAX　096-312-1894

福岡県

エコシステム学習プログラム

基にしたモデル的なプログラム：エコシステム学習プログラム
作成団体名：青い地球の会ブルーアース

地域プログラム化メンバー：青い地球の会ブルーアース、他
実証協力校等：春日市立日の出小学校、北九州市立曽根東小学校

ESDの要素：多様性　相互性　有限性　責任性

能力／態度：批判　未来　多面　関連　参加

プログラムの概要

春日市立日の出小学校では、川の生態系（隣接する公団マンションのビオトープ）を題材に、生態系の大切さ、人間もその一部であることを感じ取れるプログラムを行いました。

北九州市立曽根東小学校では、曽根干潟で行われる野鳥観察会の事前学習として、干潟の大切さについて学び、曽根干潟の保全活動の一つとして行っているゴミ拾いについて、世界的な視野に立った大切な活動であることを認識できるプログラムを行いました。

プログラムの目標

①身近な自然環境について学ぶことで、自分たちの身の回りに豊かな自然があることに気づきます。また、そこに生息する生き物には「親子」「共生」「捕食−被食」という様々な〝つながり〟があることを学び、生態系ピラミッドを作成することで「弱肉強食」「食物連鎖」を理解します。

②身近な自然環境での活動によって、多くの生き物が関わりながら生息していることを学び、「生態系」「生物多様性」を理解するとともに、人間も生態系の一部であることを学び、自然への畏敬の思いや愛着心を持てるようになります。

③グループワークやフィールドワークに積極的に参加し、自分の考えを発表するとともに、他の人の考えをしっかり聞くことができるようになります。（曽根東小学校実施分）

①生き物同士のつながりを学びます。②生き物カードを使って干潟の生態系ピラミッドをつくります。③干潟の生き物の立場でゴミをばらまかれたときの気持ちを考えます。

参加者の声

（春日市立日の出小学校）
・ビオトープの厄介者「蚊」をテーマに人間と自然界との関係性について学び、命を大切にする心が芽生えました。
（北九州市立曽根東小学校）
・学校で取り組む干潟のゴミ拾い活動は世界の海を守ることだと気付き、自己肯定感を育む一助となりました。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r40

プログラムの流れ

1時間目
　“つながり”を考える
　干潟の生態系ピラミッドをつくる
2時間目
　生態系の中で人間はどこに入るのか
3時間目
　海と陸
　世界の中の曽根干潟
　曽根干潟のゴミ
4時間目
　<グループワーク>
　曽根干潟の生き物になってみる

佐賀県

命の水ー開発途上国の子どもの問題を「水」を通して学ぶ

基にしたモデル的なプログラム：命の水ー開発途上国の子どもの問題を「水」を通して学ぶ
作成団体名：あいち国際理解教育ステーション（AIS）

地域プログラム化メンバー：認定NPO法人　地球市民の会、他
実証協力校等：佐賀市立北川副小学校

ESDの要素　多様性　相互性　公平性

能力／態度　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

本単元は水を通して開発途上国の現状に目を向けたり、開発途上国の現状を知ることを通して、自分自身に出来ること、友だちと協力すれば出来ることを自分たちの立場から考えるプログラムです。その上で、①開発途上国の現状から自分たちの考えを見つめ直し、自分たちの考えが型にはまったものになっていたり、②開発途上国について支援を考える際にはその国のことを深く知らなければならないということに気づいたりと視野を広げていくことにもつながることも期待できます。

①「水運び」を体験。②世界の水事情について学びます。
③日本は世界の中でも水に恵まれていることに気づきます。

プログラムの目標

水を通して、開発途上国の現状を知ったり、解決策を考えたりする中で、他者理解の素地を養うことが出来るようになることを目標としました。

参加者の声

マダガスカルの人のように水を頭で運ぶということは、簡単そうでしたが、やってみると大変でした。そんな大変なことをしなければいけない人たちがいるのだったら、ぼくたちは水をムダづかいしないように気を付けなければいけないと思いました。

プログラムの流れ

1時間目
浄水場見学のふりかえり
2時間目
世界地図の見方について知ろう
世界地図を見て色の違いに気づこう
3時間目
無人島ゲームを通して、生きる上で必要なものについて考える
500mlのみで1日を過ごそう
4時間目
欠かすことのできない水を使う生活は？
5時間目
開発途上国の現状について知ろう
6時間目
自分たちの生活と開発途上国のつながりについて考えよう

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r41

長崎県

稲佐っ子から地球人へ!
豊かさを考えよう!

基にしたモデル的なプログラム：地球温暖化を学び学校の省エネを考える
「フィフティ・フィフティ」プロジェクト
作成団体名：特定非営利活動法人FoEJapan
地域プログラム化メンバー：NPO法人　環境カウンセリング協会長崎、他
実証協力校等：長崎市立稲佐小学校

ESDの要素：多様性　相互性　有限性　公平性　連携性

能力／態度：批判　未来　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

稲佐小が行ってきた「省エネ共和国」の取り組みを深め、広げるために、各省の取り組み(節電、節水、リサイクル、食料、地域環境)の内容を実験やクイズを通して学びます。実験内容は、オゾンによる水処理実験や足こぎ発電体験、火力モデル実験、照明比較実験などです。

プログラムの目標

稲佐小が行ってきた省エネ共和国の取り組みを深め、広げるために、各省の取り組み(節電、節水、リサイクル、食料、地域環境)の内容を、実験やクイズを通して学習します。そして、学習のねらいは、それぞれの取り組みが繋がっており、個人から家庭、地域に広げなければ行けないこと、また、世界中の人々も同じ問題を抱えていること、今、私たちが行っていることが、未来の人々に影響を与えることに気づかせることです。

参加者の声

地球を少しでも守れるように、日頃からコンセントをこまめに抜いたりエコバックを使ったりして、それを家族や地域に広めたい。ほかの国の環境問題や、問題に対してその国がどのように対応しているのか知りたい。

①足こぎ発電体験中。
②自分たちが調べて分かったことを発表します。
③レジ袋の節約が石油の節約になることを学びます。

プログラムの流れ

1時間目
省エネ共和国の取組みを深め、広げるために、各省の取組み (節電・節水・リサイクル・食糧・地域環境)の内容を実験やクイズを通して学習する
2時間目
オゾンによる水処理実験
3時間目
「ゴミのはなし」レジ袋が地球を覆う!
アルミ缶はエネルギーのかたまり?
4時間目
①②の調査で分かったことを発表しよう
5時間目
足こぎ発電機等による発電体験、
火力モデル実験照明比較実験
6時間目
自分にできることを考える

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r42

熊本県

生命の誕生と命のつながりを学ぼう！

基にしたモデル的なプログラム：身近な自然と「水」と「生き物」のつながり
作成団体名：特定非営利活動法人くすの木自然館

地域プログラム化メンバー：NPO法人　環境ネットワークくまもと、他
実証協力校等：尚絅学園尚絅中学校

ESDの要素　多様性　相互性　有限性　連携性

能力／態度　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

荒尾干潟の自然体験（フィールドワーク）を通して、身近にある自然を体験・観察し、地域の生態系の中で、どのように生活しているのかを知るプログラムです。

荒尾干潟は、波打ち際に目視できる湧水があり、多様な生物相が見られます。生きものの話「生物多様性」や「水の循環の仕組み」について学習し、「自分たちが残したい自然や生き物」をテーマにグループごとに写真を撮影しました。

またプログラムのまとめとして、撮影した写真を使って、それらを守るために自分たちができる行動を考えました。

プログラムの目標

このプログラムでは地域にある自然・モノ・場所を活用し、森・川・干潟・海のつながりから、いのちの繋がり、生物多様性について調べ、考えます。そのなかで、多様な生物たちが生息する自然環境に気づき、生き物のつながりやその環境を守っていくことの必要性を学ぶことができます。また、地域の自然や生き物を残すためにどうしていったらよいかを主体的・計画的に考える力と意欲を養います。

①野鳥の会の方から、干潟やそこに住む生き物について説明を聞きます。②③干潟に出て生き物の観察をしました。

参加者の声

・湿地の勉強をして、「湿地は命の源」「湿地は大切なもの」「遊ぶことができる」の3つの名言が心に残りました。
・あの綺麗な干潟・海を守っていくために自分が出来る事をしていきます。
・たくさんの種類のカニがいて、触ってみると軟らかかったり固かったりして楽しかったです。
・潮の満ち方がとても感動的でした。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r43

プログラムの流れ

1時間目
　生命の誕生と命のつながりを学ぼう！
2～4時間目
　干潟にいってみよう！
　（フィールドワーク）
5時間目
　残したい自然や生き物を残すために
　できることを考えよう！

大分県

メモリアル・ツリー～10年後の私へ～

基にしたモデル的なプログラム：公園、探検・発見・ほっとけん！／木のパワーを探ろう！
～使って守る森と住まい・まちの創造人材育成
作成団体名：幕張ベイタウンにエコパークをつくる会／一般社団法人日本建築学会
地域プログラム化メンバー：NPO法人　地域環境ネットワーク、他
実証協力校等：大分市立日岡小学校

ESDの要素　多様性　相互性　連携性　責任性

能力／態度　多面　伝達　協力　関連　参加

プログラムの概要

子ども達にとって最も身近な自然の一つである「校庭の樹木」。この中から「私の好きな木」を選び、その木を詳しく学ぶプログラムです。小学4年生は「1／2成人式」を迎える年齢。「10年後、20歳になった私はこんな私でありたい」という願いを「私の好きな木」に誓い、その様子を映像に残します。その映像に、オリジナルのBGM（なるべく木製楽器を使用する）をのせてDVDにしたものを児童に配布するとともに、平成25年時の記録映像として学校に保管します。そのDVDの上映会には、授業に協力して下さった方や保護者を招待し、オリジナル曲の作曲家と演奏家による生演奏会を行い、その後、楽器との触れ合いに時間を設けました。

プログラムの目標

校庭の樹木の中から「私の好きな木」を選び、その木を詳しく学ぶことによって、自然に親しみを持ち、緑を守ることの大切さを知り、木を守るために自分にできることを考え、実践することを促します。また子ども達が20歳になった時、同窓会などで今回のDVDを見て、10年前の自分と木の様子をふり返ることで、これからの新たな未来を考えるきっかけとなる記録を残します。環境教育は、映像や音楽など他の分野と関連付けることで様々な展開を図ることが可能であり、多くの方達に関わっていただけるものであることを検証します。

参加者の声

児童
・大好きな木をずっと見守り続けたいと思います。

指導関係者
・子ども達にとって宝物のような時間ができたと思います。木について学習するだけでなく、木と自分を重ね合せたり、10歳の自分の姿を永遠に記録として残すことができました。

①校庭で「私の好きな木」を探しました。②木について詳しく学びます。③生演奏会の様子です。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r44

プログラムの流れ

1時間目
校庭の木を観察しよう
2時間目
私の好きな木を決めよう
3時間目
好きな木について調べよう1
4時間目
好きな木について調べよう2
5時間目
20歳の自分へのメッセージを考えよう
6時間目
20歳の自分へのメッセージを伝えよう
7時間目
好きな木について調べたことをまとめよう
8時間目
学習したことをみんなに伝えよう

宮崎県

ネイチャーゲームで森林環境教育

基にしたモデル的なプログラム：エコシステム学習プログラム
作成団体名：青い地球の会ブルーアース

地域プログラム化メンバー：NPO法人　宮崎文化本舗、他
実証協力校等：綾町立綾小学校、綾町立綾中学校

ESDの要素　多様性　相互性　有限性　責任性

能力／態度　未来　多面　関連　参加

協力団体：フェニックス宮崎シェアリングネイチャーの会

①学習した事をパネルにまとめて学校内で共有しました。
②森について学びました。
③見つけた葉っぱのふりかえりをしました。

プログラムの概要

自然と人間が共生する里山を題材として、森林環境に触れ、持続可能な社会の構築について考え、行動する人づくりを目的としています。また、ESDの視点から、正解を求めるのではなく、豊かな発想を養い、自分で気づき、考える力をつけることも目指しています。身近なものと、綾の森の照葉樹林とを結びつけ、自然の大切さを考えるきっかけをつくります。

環境教育では「生物多様性」等は重要な概念であるものの、小学校中学年には難しいため、身近な自然の観察を通して分かりやすく学習でき、環境問題が自分に関わる問題であることに気づかせます。

プログラムの目標

身近な自然環境について学ぶことで、自分たちの身の回りに豊かな自然があることに気づくことが目標です。また、そこに生息する植物だけでなく、綾の森、日本の森にはもっと多くの種類の植物があることを学び、綾の照葉樹の森の価値・大切さを知ってもらうことができます。授業後に生活の中で見つけた葉を集めることで、継続して森について興味を持ち続けるよう工夫し、そこから自発的な問題解決能力の向上に結びつけます。

参加者の声

いつもは、あまり森では遊ばないけど、森には思ったよりも多くの種類の植物や動物がいたことに気づいた。

いろいろな自然のふしぎについて調べたい。これからは、もっと森で遊んだり、勉強して、自然を守りたいと思った。

プログラムの流れ

1～2時間目
「里山ってどんなとこだろう？」
・ネイチャーゲーム体験
導入として、葉をテーマにしたプログラム「ジャンケン落ち葉 集め」を行い、その後のプログラムに繋げる。

3時間目
「里山から照葉樹の森（奥山）を考えよう！」
・里山から照葉樹の森に繋げる。
・ネイチャーゲームでの体験をふりかえりシートに記入し、発表する。
・まずは自分で調べ、それから自分で出来ることを考え、自発的な行動を行うように提案する。

授業後
「色んな葉っぱを集めて、調べてみよう！」
・パネルに、登下校時に拾った落ち葉を貼る。
・葉っぱの名前や特徴等を調べられるように図鑑を貸し出し、継続して興味を持ち続けるよう工夫する。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r45

鹿児島県

身近な自然と「水」と「生き物」のつながり

基にしたモデル的なプログラム：身近な自然と「水」と「生き物」のつながり
作成団体名：特定非営利活動法人　くすの木自然館

地域プログラム化メンバー：特定非営利活動法人　くすの木自然館、他
実証協力校等：姶良市立山田小学校

ESDの要素　多様性　有限性　連携性　責任性

能力／態度　未来　多面　伝達　協力　関連

プログラムの概要

学校周辺の身近な生き物を探し、地域の生態系の中でどのように生活しているかを知ります。その生き物に、人間が使う「水」がどのような影響を与えるかを考えさせます。

プログラムのまとめとして、実際に生息している生き物を見た後で、自分たちが理想とする学校周辺の自然環境を想像し、その実現の為にできることを考えます。また、学んだことを次の学年に伝えることで、地域のよりよい環境を作り上げていく活動を継続的に行っていくことができます。

プログラムの目標

○多様な生物たちが生息する自然環境に気づき、生き物のつながりを考えます。
○学校周辺の水環境にどのような生物がいるかを知り、自分たちの生活に欠かせない「水」が生物にどのような影響を与えているかを考えます。
○水の流れを知ることによって、自然環境を「点」ではなく、流域という「面」でとらえることができます。
○地域の自然に関する課題を発見し、それを解決するための意欲や実践する力を身につけます。

参加者の声

「学校の周りにこんなにたくさん生き物がいるなんて驚いた！」
「生き物がたくさんいる山田はとてもすごい所で、自分たちは大好き！こんな山田をいつまでも残したいから、大人の皆さんも協力してください。」（学習発表会での保護者や地域の方へのお願い）

①学習発表会で学校周辺の野鳥を頂点とする生態系について発表。②野鳥観察会。③自分たちで野鳥の生態系を調べます。

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r46

プログラムの流れ

1～2時間目
　食と生態系理解プログラム
　＜つかむ＞
3～5時間目
　学校周辺の生き物マップ作り①
　＜調べる＞
　＜深める＞
6～8時間目
　学校周辺の生き物マップ作り②
　＜調べる＞
　＜深める＞
9～10時間目
　生き物と水のつながりを考える
＜考える＞
11～12時間目
　学校周辺の環境を未来により良い形で残すために自分たちの活動計画を立てる
　＜作る＞
　＜伝える＞

沖縄県

地下水と飲み水

基にしたモデル的なプログラム：命の水―開発途上国の子どもの問題を「水」を通して学ぶ―
作成団体名：あいち国際理解教育ステーション（AIS）

地域プログラム化メンバー：財団法人　沖縄県公衆衛生協会、他
実証協力校等：宮古島市伊良部中学校

ESDの要素　多様性　相互性　有限性　公平性　連携性　責任性

能力／態度　批判　未来　多面　関連

プログラムの概要

水道水はどこの水を使っているのか考察し、水道水が飲めるようになるしくみを学ぶプログラムです。地域や処理法の異なる飲料水を比較し、違いを確かめます。

「水を使う=水を汚す」ということを理解し、排水処理の過程を実験を通じて学びます。また、伊良部島での排水の状況を学び、伊良部島での水の関わりから、島の暮らしにおいて、地下水との持続的な関わり方を考察します。

①簡易浄化実験の比較。コーヒーフィルターろ過、砂ろ過、沈殿。②「利き水」体験。島の水道水はどれでしょう？

③水を使うことはどういうことか。水の循環。

プログラムの目標

浄水処理のしくみ及び排水処理のしくみを学び、水循環の中に日常生活で利用する水も含まれることを理解します。また、島の生活と地下水の関わりを考察し、島の環境について意識を向上させます。これらのことから地下水との持続的な関わり方を考えるきっかけを作ります。

参加者の声

私は、微生物の力を借りて水をきれいに保っていることが衝撃的でした。また、実験では砂でろ過した方が水がきれいになったことも驚きました。今日学んだ事から「自然の力」はスゴイと思いました。

プログラムの流れ

1時間目
　伊良部島水クイズ！
2時間目
　飲み水ってどこの水？
3時間目
　伊良部の水道水をあててみよう！
4時間目
　水を使うってどういうこと？
5時間目
　使った水の汚れをおとそう！
6時間目
　伊良部の生活排水の行方
　まとめ
　伊良部での水の関わりを考える
　特別講師への質問

学習指導要領との関連など、詳細はQRコードまたは下記URLでご覧いただけます。

http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r47

【索引】分野から検索

4つの分野		基にしたモデル的なESDプログラム名	掲載ページ
ともに生きる	①国際理解	ちがう国でも同じこと	20, 49
		命の水―開発途上国の子どもの問題を「水」を通して学ぶ―	64, 70
		FOOD!　～食を通して世界とのつながりを考える～	32, 51
	②社会参画	公園、探検・発見・ほっとけん！…誰が？	11, 23, 24, 32, 42, 59, 67
		環境ウォッチングで提案づくり	45
		ふるさとのきれいな海を守ろう！	13, 28, 43, 52
	③健康		―
自然・生命	④生命	みどりなライフ！ ～みどりのカーテンで始めよう身近なエコ活動～	―
	⑤自然への愛着	「生き物たちとの持続可能な社会を考えよう」（自然調和型社会学習プログラム）	22, 27, 31,34, 37, 57
		公園、探検・発見・ほっとけん！…誰が？	11, 23, 24, 32, 42, 59, 67
		里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう	16, 22, 25, 33
		身近な自然と「水」と「生き物」のつながり	15, 22, 26, 41, 43, 44, 60, 66, 69
		ふるさとのきれいな海を守ろう！	13, 28, 43, 52
		力を合わせて絵本作家になろう！	50, 53
		川は自然の宝箱	12, 41, 43, 44, 46
		みどりなライフ！ ～みどりのカーテンで始めよう身近なエコ活動～	―
		エコシステム学習プログラム	44, 63, 68
	⑥生態系・生物多様性	「生き物たちとの持続可能な社会を考えよう」（自然調和型社会学習プログラム）	22, 27, 31,34, 37, 57
		里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう	16, 22, 25, 33
		木のパワーを探ろう！ ～使って守る森と住まい・まちの創造人材育成～	14, 58, 67
		身近な自然と「水」と「生き物」のつながり	15, 22, 26, 41, 43, 44, 60, 66, 69
		川は自然の宝箱	12, 41, 43, 44, 46
		エコシステム学習プログラム	44, 63, 68
	⑦水	命の水―開発途上国の子どもの問題を「水」を通して学ぶ―	64, 70
		里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう	16, 22, 25, 33
		ふるさとのきれいな海を守ろう！	13, 28, 43, 52
		川は自然の宝箱	12, 41, 43, 44, 46
	⑧大気		―
	⑨土	里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう	16, 22, 25, 33
		身近な自然と「水」と「生き物」のつながり	15, 22, 26, 41, 43, 44, 60, 66, 69
エネルギー・地球温暖化	⑩地球温暖化の起こるしくみと影響	地球温暖化を学び学校の省エネを考える「フィフティ・フィフティ」プロジェクト	7, 21, 35, 65
		レッツゴー！エコキッズ	36
	⑪資源・エネルギー	一人ひとりのエコが地球の未来を救う！ ～エネルギーと品物の一生を考えた品物の選び方・使い方・捨て方～	―
		地球温暖化を学び学校の省エネを考える「フィフティ・フィフティ」プロジェクト	7, 21, 35, 65
		なたねプロジェクト 見て食べて楽しんで！使った油はリサイクル	19, 45
	⑫産業		―
	⑬消費生活・衣食住	地球と人にやさしい服の選び方	―
		一人ひとりのエコが地球の未来を救う！ ～エネルギーと品物の一生を考えた品物の選び方・使い方・捨て方～	―
		FOOD!　～食を通して世界とのつながりを考える～	32, 51
		みどりなライフ！ ～みどりのカーテンで始めよう身近なエコ活動～	―
ごみ・資源	⑭公害・化学物質		―
	⑮３Ｒ	一人ひとりのエコが地球の未来を救う！ ～エネルギーと品物の一生を考えた品物の選び方・使い方・捨て方～	―
		レッツゴー！エコキッズ	36
		なたねプロジェクト 見て食べて楽しんで！使った油はリサイクル	19, 45
		ゴミ減らし大作戦　～ゴミを減らすルールをつくろう！～	―

【索引】対象から検索

対象	都道府県	地域版ESDプログラム名	掲載ページ
中学校	青森	身近な公園をもっと知って魅力を伝えよう！	11
中学校	岩手	ふるさとの川－水がつなぐ自然のめぐみと人のくらし	12
中学校	栃木	ちがう国でも同じこと～モンゴルと日本の暮らしを比べてみよう～	20
中学校	千葉	公園・発見・ほっとけん	23
中学校	石川	金沢の環境が育んだ食	32
中学校	岐阜	温暖化・エネルギーについて学び、何ができるか考えよう	35
中学校	京都	観光地の嵯峨嵐山を体験・調査・参画しておくれやす。	42
中学校	和歌山	地域の水生生物のつながりを調べる	46
中学校	岡山	食と環境のつながりについて考えよう	51
中学校	徳島	私たちの暮らしと河川環境、生き物のつながり～水質調査から見えてきたもの～	60
中学校	熊本	生命の誕生と命のつながりを学ぼう！	66
中学校	沖縄	地下水と飲み水	70
小学校高学年	北海道	北国の暮らしから省エネを考える「フィフティ・フィフティ」プロジェクト	7
小学校高学年	青森	身近な公園をもっと知って魅力を伝えよう！	11
小学校高学年	岩手	ふるさとの川－水がつなぐ自然のめぐみと人のくらし	12
小学校高学年	秋田	MOTTAINAI(もったいない)の松林を秋田方式で未来へ	14
小学校高学年	山形	「鮭をとおしてかんがえる川のこと、食のこと」	15
小学校高学年	福島	森・川・海のつながりの中から“いのちの輝き”伝えよう	16
小学校高学年	茨城	なたねプロジェクト ～タネは命の循環～	19
小学校高学年	栃木	ちがう国でも同じこと～モンゴルと日本の暮らしを比べてみよう～	20
小学校高学年	群馬	太陽の力でパウンドケーキをつくろう！ ～楽しみながら、ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）について考えよう！	21
小学校高学年	埼玉	もっといきいきビオトープ～身近な自然とのつながりを知る～	22
小学校高学年	神奈川	学校林から “青根の輝き” を伝えよう	25
小学校高学年	新潟	ミッション!!ビオトープを守り、伝えよう	26
小学校高学年	山梨	八ヶ岳博士になろう！～八ヶ岳南麓の自然を知る～	27
小学校高学年	静岡	ふるさとの海を守り、奇跡の命に寄り添おう	28
小学校高学年	滋賀	渋川生き物絵図	41
小学校高学年	奈良	菜の花の向こうに	45
小学校高学年	鳥取	世界とつながり未来につなげよう！	49
小学校高学年	高知	物部の森のもの知り博士になろう！～森林保全と生き物たちとの持続可能性を考える～	57
小学校高学年	香川	『樹木の気持ち』とつながろう！～まちも里海も豊かにする樹木のはたらき～	58
小学校高学年	福岡	エコシステム学習プログラム	63
小学校高学年	長崎	稲佐っ子から地球人へ!豊かさを考えよう!	65
小学校高学年	沖縄	地下水と飲み水	70
小学校中学年	宮城	カキを通して宮城のきれいな海を守ろう！	13
小学校中学年	山形	「鮭をとおしてかんがえる川のこと、食のこと」	15
小学校中学年	栃木	ちがう国でも同じこと～モンゴルと日本の暮らしを比べてみよう～	20
小学校中学年	群馬	太陽の力でパウンドケーキをつくろう！ ～楽しみながら、ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）について考えよう！	21
小学校中学年	神奈川	学校林から “青根の輝き” を伝えよう	25
小学校中学年	富山	ぼくらの里山『呉羽山』	31
小学校中学年	福井	ビオトープの再生を通して、地域の特性や持続可能性を考えよう	33
小学校中学年	長野	信州の山の中で暮らし、歴史、文化、自然を学ぶ～里山から山岳の中で～	34
小学校中学年	愛知	環境問題について考え,地球にやさしい活動をしよう	36
小学校中学年	三重	見つめよう　わたしたちの自然～ギフチョウから考える薦原の自然と未来～	37
小学校中学年	滋賀	渋川生き物絵図	41
小学校中学年	大阪	西鳥の海に行こう	43
小学校中学年	兵庫	ミヤマアカネ・リサーチプロジェクト	44
小学校中学年	奈良	菜の花の向こうに	45
小学校中学年	島根	地域を守る・伝える絵本作家になろう！	50
小学校中学年	広島	里海たんけん隊～ふるさとの海の発見！感動！ SOS ！～	52
小学校中学年	山口	絵本作家を目指そう	53
小学校中学年	福岡	エコシステム学習プログラム	63
小学校中学年	佐賀	命の水－開発途上国の子どもの問題を「水」を通して学ぶ	64
小学校中学年	大分	メモリアル・ツリー～ 10年後の私へ～	67
小学校中学年	宮崎	ネイチャーゲームで森林環境教育	68
小学校中学年	鹿児島	身近な自然と「水」と「生き物」のつながり	69
小学校低学年	山形	「鮭をとおしてかんがえる川のこと、食のこと」	15
小学校低学年	東京	とびだせわくわくドキドキ愛日探検隊 ～まちめぐりをして地域の良さを体験し、気づき、人と関わり、まちづくりを発信する～	24
小学校低学年	滋賀	渋川生き物絵図	41
小学校低学年	大阪	西鳥の海に行こう	43
小学校低学年	兵庫	ミヤマアカネ・リサーチプロジェクト	44
小学校低学年	愛媛	東雲ピカピカESD ～私たちが育てるコミュニティファーム～	59

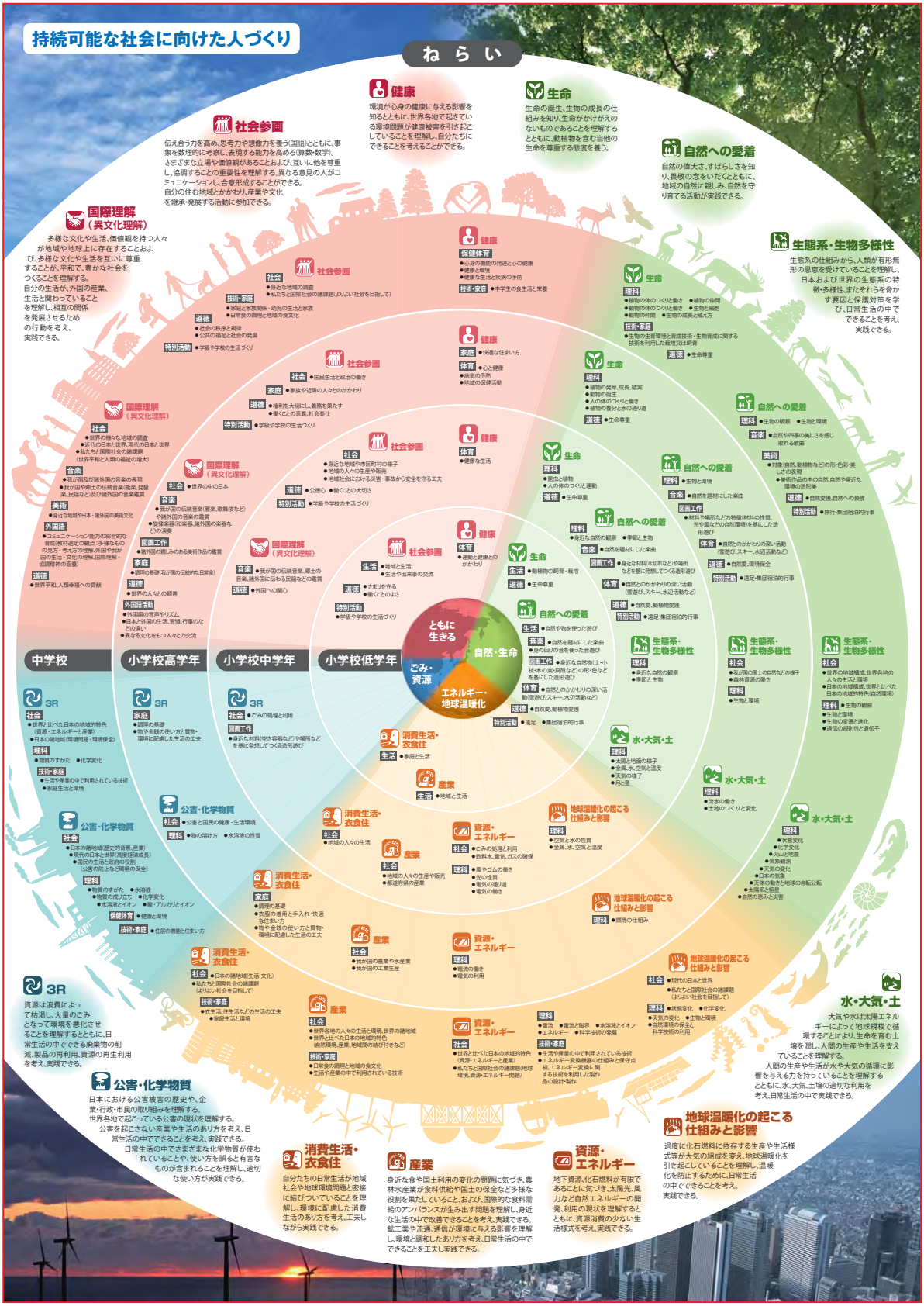
平成25年度　持続可能な地域づくりを担う人材育成事業
地域版ESD環境教育プログラムガイドブック
平成26年3月発行

平成25年度 環境省「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」全国事務局
地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）
〒150-0001　東京都渋谷区神宮前5-53-70　国連大学ビル1F
TEL：03-3407-8107 ／ FAX：03-3407-8164
開館時間：10:00 ～ 18:00（土曜日は17:00まで）

リサイクル適正の表示：印刷用の紙にリサイクルできます
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、
印刷用紙へのリサイクルに適した材料[A ランク]のみを用いて作製しています。

解説【5】ひとめでわかる学年別・教科別ガイド

指導要領に沿って、4つの環境分野・13のサブテーマ・４つの発達段階別に整理しました。このマンダラ（ESDの世界観を表した地図）を放射状にたどり、学習内容に沿った分野、サブテーマと教科、学年を選んでください。



環境省「授業に活かす環境教育－ひとめでわかる学年別・教科別ガイド－」より

GREEN PRINTING JFPI
P-B10172
この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。

VOC FREE T&K